はじめに

本市では、平成 27 年 3 月に策定した本市教育振興基本計画である「わが都市(まち)すいたの教育ビジョン（中間見直し版)」に基づき、「今　吹田から　未来(あす)の力を」の教育理念のもと、「*総合的人間力の形成」、「社会全体の教育力の向上」、「豊かな教育環境の創造」を基本目標に掲げ教育課題に取り組むとともに、将来に明るい展望を持ち、力強く未来を切り拓いていく教育を学校・地域・社会が一体となって進めています。

【報告書の概要】

本報告書は、*地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、平成 30 年度の教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について、教育委員会自らが点検及び評価を行った結果をまとめたものです。

教育ビジョンの 47 施策のうち平成 30 年度の「重点項目（施策)」に位置付けた 15 施策 46 事業を対象とし、教育委員会自らが重点項目ごとに点検及び評価を実施し、平成 30 年度中の取組の状況と評価、及び今後の課題・方針を取りまとめました。

さらに、教育委員会が行なった点検及び評価等について、学識経験者から知見をいただきました。

引き続き、効果的な教育行政の推進に努めるとともに、本報告書については市ホームページ等を通じて公表します。

わが都市すいたの教育ビジョン体系図

基本構想

教育理念

今 吹田から 未来(あす)の力を

生命(いのち)かがやき ともにつながり 未来を拓(ひら)く吹田の教育

基本目標１ 総合的人間力の形成

～学びを高め、健やかな心と体を育む教育～

基本目標２ 社会全体の教育力の向上

～支えあい、地域とともに歩む教育～

基本目標３ 豊かな教育環境の創造

～豊かな学びを支援する教育環境～

基本計画

基本方向１　幼児教育を充実し総合的人間力の基礎を培います
- 施策１　人とかかわる力を育む教育の充実
- 施策２　小学校との円滑な接続を重視した教育内容の充実
- 施策３　子育て支援の推進
- 施策４　認定こども園化の推進

基本方向２　小中一貫教育を通して総合的人間力を育成します
- 施策５　小中一貫教育の推進
- 施策６　確かな学力の育成
- 施策７　心の教育の充実
- 施策８　健康・体力づくりの推進
- 施策９　今日的課題に対応した教育の推進
- 施策10　生徒指導の充実
- 施策11　教育相談の充実
- 施策12　進路指導の充実
- 施策13　特別支援教育の充実

基本方向３　人生をより楽しく豊かに生きる生涯学習・生涯スポーツを進めます
- 施策14　生涯学習推進体制の整備
- 施策15　生涯学習プログラムの充実
- 施策16　生涯学習情報の提供
- 施策17　地域スポーツの振興
- 施策18　スポーツイベント・プログラムの充実
- 施策19　健康づくり事業の推進と高齢者・障がい者スポーツの振興
- 施策20　スポーツ情報の提供

基本方向４　豊かな社会の実現に向けた人権教育を進めます
- 施策21　人権教育の推進
- 施策22　人権啓発の推進

基本方向５　地域の風がゆきかう学校・園づくりを進めます
- 施策23　地域や保護者との連携による教育の推進
- 施策24　地域や保護者に信頼される開かれた学校・園づくり

基本方向６　地域全体で教育力の向上を図ります
- 施策25　家庭教育の支援と青少年育成
- 施策26　青少年団体、青少年指導者の育成
- 施策27　青少年の仲間づくり・居場所づくりの推進
- 施策28　青少年施設の有効活用と相互連携
- 施策29　青少年が安心して安全に活動できる環境づくりの推進
- 施策30　青少年相談の充実
- 施策31　教育コミュニティづくりの推進
- 施策32　スポーツ団体の育成
- 施策33　スポーツ指導者の養成・活用

基本方向７　安心・安全で豊かな学校・園の教育環境を整備します
- 施策34　学校・園施設の整備
- 施策35　安心・安全の確保
- 施策36　情報教育環境の整備
- 施策37　就学（修学）の援助
- 施策38　過大校等の教育環境の整備
- 施策39　学校規模適正化の検討

基本方向８　信頼と責任のある学校・園づくりを進めます
- 施策40　学校・園運営体制の確立
- 施策41　教育資料の提供と教職員研修の充実
- 施策42　教職員の人事管理の適正化

基本方向９　生涯学習・生涯スポーツ環境の整備を進めます
- 施策43　生涯学習施設の整備・充実
- 施策44　スポーツ施設の整備

基本方向１０　開かれた教育行政を進めます
- 施策45　教育情報の発信
- 施策46　教育施策の点検・評価
- 施策47　総合教育会議の開催

■ 部分の施策が重点項目です

【点検・評価の見方】

※の項目は平成29年度（2017年度）末に平成30年度（2018年度）の重点項目を策定した時点の内容を掲載しています。

平成30年度（2018年度） 重点項目（※）

○

重点項目の内容

重点項目につながる教育ビジョンの目標・方向・施策（※）

基本目標

基本方向

施　　策

平成30年度の実績及び令和元年度の目標値

重点項目を構成する事業の概要及び実績

【事業名】（※）		【担当課】（※）	
事業の概要および平成30年度の実績等		【H30実績】	達成状況
【指標】（※）事業の実績とその評価を図る指標	【考え方】（※）令和元年度の指標の目標値の設定について	【R1目標値】（※）	
H29決算額　千円	H30当初予算額（※）　千円	H30決算見込額	

各事業の達成状況（★）

取組の状況と評価

平成30年度の重点項目についての取組の状況と評価

今後の課題・方針

（★）達成状況の考え方
A：達成（設定した目標に対して順調に進めることができた）
B：一部達成（設定した目標の一部のみ進めることができた）
C：未達成（取組を進めたが目標に達しなかった）
D：未実施（取組ができていない）

平成30年度（2018年度） 重点項目

1 小学校との円滑な接続を重視した教育内容の充実

園児の発達や学びの連続性を確保する観点から、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を明確にし、小学校教育への円滑な接続に向けた教育及び保育内容の工夫を行います。また、平成30年度に施行される新幼稚園教育要領に合わせ、本市が策定した新しい幼稚園・こども園教育課程編成の基準に沿った教育・保育が行えるように教職員向けの研修を行います。さらに、経験年数の浅い教職員が増加する中、計画的に教職員研修を実施するほか、それぞれの教職員の課題に合った研修も行い、各園での保育内容を充実していきます。

重点項目につながる教育ビジョンの目標・方向・施策

基本目標１　総合的人間力の形成

基本方向１　幼児教育を充実し総合的人間力の基礎を培います

施　　策２　小学校との円滑な接続を重視した教育内容の充実

重点項目を構成する事業の概要及び実績

【事業名】保育所・幼稚園・小学校の連携事業		【担当課】保育幼稚園室	
保育所の児童や小学生など生活経験や年齢の異なる子供たちとの遊びや行事の交流を積極的に行い、人とかかわる力を育みます。また、幼稚園教諭、保育士、小学校教諭が合同研修を実施し、互いの教育・保育の参観や体験を行って交流し、就学後も視野に入れた幼児教育の充実を図り、円滑な接続に取組みます。		【H30実績】 8回/年	達成状況 A
【指標】 交流の回数	【考え方】 ねらいをもち、計画に基づいた交流を実施する。	【R1目標値】 8回/年	
H29決算額　0　千円	H30当初予算額　0　千円	H30決算見込額　0　千円	

【事業名】研究幼稚園事業		【担当課】保育幼稚園室	
新幼稚園教育要領に基づき、幼児の実態を踏まえて、各園で特色のある教育課程を展開するとともに、今日的課題について研究を行い、教員の資質や専門性を高めることで、幼児教育の充実を図ります。また、幼稚園やこども園だけでなく小学校中学校などに向けて、成果を発信することで教育力を高めます。		【H30実績】 2回	達成状況 A
【指標】 研究発表会実施回数	【考え方】 研究委嘱園が、他園、他校種の教職員に研究成果を発信する場を持つ。	【R1目標値】 2回	
H29決算額　80　千円	H30当初予算額　80　千円	H30決算見込額　80　千円	

【事業名】幼稚園教員研修事業		【担当課】保育幼稚園室	
新幼稚園教育要領に基づいて作成した吹田市の幼稚園・こども園教育課程編成の基準の研修を行い、幼稚園教諭が新教育要領の内容を理解し保育実践を行います。その他、幼児教育に関する専門知識・技術の習得や円滑な園運営のために必要な研修を行い、教職員の資質の向上と質の高い幼児教育の提供に努めます。		【H30実績】 100%	達成状況 A
【指標】 研修後のアンケートの肯定的回答	【考え方】 研修参加者が、資質向上に役立ち、活かしていける研修内容	【R1目標値】 100%	
H29決算額　60　千円	H30当初予算額　60　千円	H30決算見込額　60　千円	

取組の状況と評価

*中学校ブロックを中心に地域の保育所や小学校・中学校との交流を積極的に進め、園内研修や研究保育等について発信を行うとともに研修会を実施し、互いの教育内容について理解を深めました。

年度当初には、改訂した「吹田市立幼稚園・こども園教育課程編成の基準」について、説明会や研修を開催し、各園で新幼稚園教育要領の実施を視野に、教育・保育を行いました。

また、本市幼稚園教育研修会やステップアップ研修に加えて、平成30年度から学年別の担任研修や保育補助者（特別支援担当）、子育て支援担当教諭等、業務別の研修や交流を実施しました。それらの研修においては、「是非来年も実施してほしい。」という意見が多数ありました。保育士や小学校教諭との合同研修では、参加者全員が研修後のアンケートに肯定的な回答をしました。

研究幼稚園事業においては、幼稚園2園に研究を委嘱し、新幼稚園教育要領の考え方に基づいた実践・研究を行いました。研究発表には本市の保育士、小学校教諭に加え、他市の幼稚園教諭の参加があり、保育所や小学校と連携を図る機会となり、お互いが学び合うことができました。

今後の課題･方針

平成30年度の交流や研修を基盤として、幼児教育の担い手である幼稚園教諭や保育士と、小学校教諭の連携を図り、合同研修のほか、互いの保育や授業を参観し意見を交換する機会を増やすことで、幼児期から児童期にわたる子供の発達と学びの連続性を確保していきます。

また、「吹田市立幼稚園・こども園教育課程編成の基準」について引き続き見直しを行い、経験の浅い教諭が参考にできる実践事例等の資料を充実させます。

さらに、教諭のニーズに応じた研修については、様々な課題に対応できるよう、より内容を充実させ、教育・保育の質の向上に努めていきます。

平成30年度（2018年度） 重点項目

2 認定こども園化の推進

本市では、急増する保護者ニーズに対応するため待機児童解消アクションプランの方策の一つとして、公立幼稚園の*認定こども園化を進め、平成30年4月には計画通り幼稚園型認定こども園8園が開園します。長時間保育の子供と教育時間のみの子供が同じ認定こども園において関わりながら共に育ち合えるように、子供に寄り添った教育・保育の工夫や教職員の連携の仕方等について、担当者会議を開催し研修等に反映できるように検討します。

重点項目につながる教育ビジョンの目標・方向・施策

基本目標1　総合的人間力の形成

基本方向1　幼児教育を充実し総合的人間力の基礎を培います

施　　策4　認定こども園化の推進

重点項目を構成する事業の概要及び実績

【事業名】幼稚園型認定こども園事業		【担当課】保育幼稚園室	
毎月、8園の認定こども園で構成する園長同士が連絡会を開催し、それぞれの課題を出し合って、解決に向けて対応を検討することで、子供にとってより良い教育・保育となるよう取り組みます。また、実践の成果も各園で共有し、教育・保育の充実に努めます。		【H30実績】 16回	達成状況 A
【指標】 検討会議や研修の回数	【考え方】 会議や研修を通じて、認定こども園としての教育・保育の工夫と充実、課題解決を行う。	【R1目標値】 年20回	
H29決算額　0　千円	H30当初予算額　0　千円	H30決算見込額　0　千円	

取組の状況と評価

平成30年度からこども園の園長連絡会議を設置し、8回実施しました。また、こども園の学学級編成が年齢別であることから、歳児別研修を8回開催し、各年齢の発達過程を踏まえたより良い教育・保育実践につなげました。

本市で最初に開園したこども園である佐竹台幼稚園は、先駆的な役割を担うこども園として、本市教育研究報告会において「3年目だからこそ見えてきた課題」の発表を行い、他のこども園は園運営や教育・保育を進めるうえで参考とすることができました。

今後の課題・方針

平成30年度に見えてきた課題に加え、今後の保育実践によって見えてくるであろう課題についても、こども園の園長連絡会議において共有するとともに、検討を重ねて課題解決に努め、より良い園運営を行っていきます。なお、公立で唯一の幼保連携型認定こども園「はぎのきこども園」についても保育士と連携し、より良い教育・保育が実践できるよう検討を続けていきます。また、こども園の教員に必要な研修を実施し、資質向上に努めます。

平成30年度（2018年度） 重点項目

3 小中一貫教育の推進

「総合的人間力」の育成を図るため、小中一貫教育を基盤とした取組の推進が重要です。幼稚園・保育園・認定こども園と小学校とのつながりを円滑にするとともに、義務教育9年間を一体のものと捉え、学力向上や豊かな心の育成など、小・中学校が連携して子供たちに「生きる力」を身につけさせる教育活動や子供たちの育ちを支援します。また、*小中一貫教育実施プランⅡに基づき、市内にあります18の各中学校ブロックが小中一貫教育カリキュラム例を参考に9年間のカリキュラムラム編成など小中合同研究をさらに進められるよう、小中一貫教育の取組のさらなる充実に努めます。

重点項目につながる教育ビジョンの目標・方向・施策

基本目標１　総合的人間力の形成
　基本方向２　小中一貫教育を通して総合的人間力を育成します
　　施　　策５　小中一貫教育の推進

重点項目を構成する事業の概要及び実績

【事業名】小中一貫教育推進事業		【担当課】指導室	
各中学校ブロックにおいて、義務教育9年間を一体のものと捉え、「*めざす子ども像」を共有し、課題解決する能力育成に向けた授業づくり等の学習指導、豊かな心の育成に向けた中学校ブロックにおける道徳の時間の公開授業や研究協議の実施、生徒指導の充実及び教職員の指導力、学校運営力の向上を図ります。		【H30実績】 18ブロック	達成状況 A
【指標】 小中一貫教育カリキュラムを編成した中学校ブロック数（平成29年度、編成作業中18ブロック、完成0ブロック）	【考え方】 小中一貫教育実施プランⅡに基づき、9年間の教育課程の編成等充実を図っていく。	【R1目標値】 18ブロック	
H29決算額　1,003　千円	H30当初予算額　1,210　千円	H30決算見込額　1,210　千円	

取組の状況と評価

「総合的人間力」の育成を図るため、義務教育9年間を一体のものと捉えた一貫性・継続性のある教育の充実に向け、就学前教育とのつながりも意識しながら、小・中学校の緊密な連携のもと、取組を推進しています。

各中学校ブロックで「めざす子ども像」を共有し、小中一貫連携協議会（連絡会）を定期的に開催し、組織的に活性化させるとともに、学習や生徒指導等における課題解決に向けて、合同研修会や公開授業の開催等、具体的な取組の充実を図りました。また、全ブロックにおいて、既に作成済みの「キャリア教育」に加えて、国語、算数・数学、社会、理科、外国語活動・英語、音楽、図工・美術、体育、食育、特別の教科　道徳について小中一貫教育カリキュラムを作成しました。

今後の課題・方針

平成23年度に開園した「*千里みらい夢学園」では、これまでの取組の検証を行うと共に、新学習指導要領の内容を踏まえ、令和2年度には新たな取組計画を策定するなど方向性を示し、取組の充実を目指していきます。

各中学校ブロックにおいては、実態に応じて掲げた「めざす子ども像」の実現に向け、特色を活かした取組を推進します。平成30年度末に完成させた小中一貫教育カリキュラムの実施及び検証に取り組み、学力向上に向けた授業改善を図ります。

小中一貫カリキュラム（道徳）　一例

中学校ブロックのめざす子ども像　「確かな学力」「豊かな心」「たくましい体」のバランスのとれた『総合的人間力』を備え、夢に向かって行動できる子ども。

◆道徳研究主題　自他を尊重する道徳教育～生命尊重にせまる教材の工夫～

◆道徳を通して育てたい力
①自尊感情をはぐくむ力
②自他を認め合う力
③他者を思いやる力
④命を大切にする力

◆9年間を通してつけたい力とそのための資料

	低学年	中学年	高学年
①	自分の良さを認め、自分を大切にする	自分でできることを目標として作り、やりとげようとする	より高い目標に向かって努力し、自律的で責任ある行動をする
教材	小1 きんのおのぎんのおの、ぼくのことときみのこと、みらいにむかって、くりのみ、大すきだから 小2 きらきらみずき、おらもいしゃになる、ぞうさんの歌と絵	小3 金色の魚、**ソフトボールで金メダルを上野由岐子**、あとひと言、見つからないリコーダー、心にひびくかねの音、**鬼太郎をかいたゲゲさん**、あらそい、**すきなことだから高橋尚子物語**、言い出せなくて 小4 クラスたいこう全員リレー、友達が泣いている、カマキリ、百点を十回取れば、友達のしょうこ、花をさかせた水がめの話、ばんざい大きな花まる、**レスリングの女王　吉田沙保里**、**へこたれないきせきのりんご**	小5 おもしろければいいの、うばわれた自由、人生という強化、手品師、ぬぎすてられたくつ、日本の「まんがの神様」、ライバルは自分自身、**世界に羽ばたく航平ノート**、植物とともに 小6 **自分は自分**、**移動教室の夜**、食べ残されたえびになみだ、ミッキーマウスの誕生、のりづけされた詩、光をともした「魔法の薬」、**会話のゆくえ**、市民に愛される動物園を目指して、鬼の銀蔵
②	学校のルールを知り、みんなで守ろうとする	友達と互いに理解し、信頼し、協力し合う	集団の中で役割を自覚し、相手の気持ちを考えて協力し合う
教材	小1 はりきりいちねんせい、めだかのめぐ、じゃんけんぽん、おかしくないかな、だれもみていない、はちさんのばっじ、ぽっかぽか、 小2 わたしの学校、	小3 **貝がら**、フローレンス・ナイチンゲール物語、**明るくなった友だち**、新かん線で、エチケットかるた、**絵葉書と切手**、ぼかぼか言葉、かねつきどう、**みんなの学級会** 小4 心の信号機、心と心のあく手、温かい言葉、谷川岳に生きたドクター、思いがけないあいさつ、泣いた赤おに、**いのりの手**、**なみだとえがおの「なでしこジャパン」**、へぶらなつり	小5 思いもよらぬ出来事、くずれ落ちただんボール、台湾からの転入生、おじいさんのあたたかな目、どろだらけのユニフォーム、**言葉のおくりもの**、友のしょう像画、銀のしょく台、すれちがい 小6 こだわりのイナバウアー、**ある日、町の中で**、**お別れ会**、**ロレンゾの友達**、**ひとみと厚**、**ブランコ乗りとピエロ**、行為の意味、心にふく風、**最後のおくり物**
③	色々な立場にある友だちを知り、思いやる心をもつことができる	思いやりの心をもち、相手の立場に立って仲良く協力することができる	差別や偏見をもつことなく、思いやりの心をもって相手に接することができる
教材	小1 あかるいあいさつ、かぼちゃのつる、はやとのゴール、げんきなてるくんと、となりのジェニーちゃん、はしの上のおおかみ、ないちゃった、 小2 きれいな羽、およげないりすさん、ぐみの木と小鳥、竹馬と一りん車、まいごのすず、公園のおにごっこ	小3 あめ玉、アメリカから来たサラさん、一まいの銀貨、**なかよしポスト**、しんぱんは自分たちで、心をつないだ合言葉、パラリンピックにねがいをこめて、**わらじ作り**、メッセージ、家のパソコンで、にんじんのかざり切り 小4 道子の赤い自転車、雨のバス停留所で、ヘレン・ケラー物語、**えっ、どうして**、神戸のふっこうは、ぼくらの手で、お母さんのせい求書、かべに付けた手のあと、たな田が変身、不思議なふろしき、国のちがいをこえて、アメリカとの出会い　ジョン万次郎のぼうけん	小5 お客様、いじめをなくすために、この思いをフェルトペンにたくして、ぼくがいるよ、森の絵、もう一つの塔、美徳を守る人 小6 **どんな心が見えますか**、ホワイトハウスにできた柔道場、古きよき心、米作りがアフリカを救う、**どれい解放の父　リンカン**、はじめてのアンカー、**マザー・テレサ**、小川笙船、大みそかの朝に、ラグビー日本代表のかがやき
④	身近な生活を通して生命について考える	生命の始まりと終わりを知り、生命の大切さを考える	自他の生命を尊重し、力強く生き抜こうとする心を育てる
教材	小1 おじいちゃんのたんざく、げんきでねあげはくん、そらいろのたまご、ノンノンだいじょうぶ、ハムスターの赤ちゃん 小2 しぜんのいのち、ぴよちゃんとひまわり、せかいでいちばん大切なもの、ごめんねみなみ、だっこしながら、	小3 **目の見えない犬**、天の川、**ひきがえるとろば**、**六さいのおよめさん**、ハチドリのひとしずく、幸福の王子 小4 **おばちゃん**、**がんばれ**、**えがおのクリニクラウン**、**わたしのいのち**、**うみがめの命**、石っこけんさん宮沢賢治、花さき山	小5 ペルーは泣いている、太平洋のかけ橋、**二十分間の出来事**、**母とながめた一番星**、**電池が切れるまで**、フジの新しいおびれ、もったいない、アルソミトラの空、わたしはひろがる、心の中のりゅう 小6 チョモランマ清掃登山隊、**その思いを受けついで**、美しいお面、**命を見つめて**、熊野の森を守る南方熊楠、**ラッシュアワーの惨劇**、青の洞門

	中学校		
①	より高い目標や夢に向かって、自己決定し、未来を切りひらいていく		
教材	中1 「なぜ勉強するのですか」「ピンチの裏側」「遅刻が努力を無駄にする。」	中2 「父との約束」「あきらめないで」「習慣をつくる」「働くことの喜び」「私とオートマ」「好きなことを夢にしよう」	中3 「道はいつもひらかれている」 (古谷綱武『生きがいの探求―青春の書』) 「正しいことは美しい」
②	さまざまな人との関わりで今の自分があることに感謝でき、集団の一員として積極的に関わっていく		
教材	中1 「わたしから、ありがとう」「何かをしよう」「春樹が朝、目覚めて考えたこと」　「勇気ある大学生」「いつわりのバイオリン」	中2 「二通の手紙」「千五百メートル走」「スマイルと真心はタダ」「日々の生活の中で育つ」「銀色のシャープペンシル」「そうじの神様が教えてくれたこと」「ステンドグラスの輝き」	中3 「帰郷」(私たちの道徳)「クマをもりとひと」
③	寛容な心で、多様性を認めることができる		
教材	中1 「一冊のノート」「一粒のアメ」「言葉の向こうに」「鳩が飛び立つ日」	中2 「ネパールのビール」「さよならホストファミリー」「あいつとセントバレンタインデー」	中3 「二人の弟子」「嵐の後に」「電車を押した救出劇」
④	生きとし生けるものの尊厳に気づき、生命あることに感謝の念をもち、行動する		
教材	中1 「キミばあちゃんの椿」	中2 「富士山を汚すのは誰か」	中3 「命の授業」(竹見台中元校長　延地先生最後の授業)「平和を考える旅」

平成３０年度　小中一貫教育　各中学校ブロック「めざす子ども像」一覧

ブロック名	「めざす子ども像」
第一中	・人権尊重の精神を持ち、人や社会とよりよく関わっていける子ども ・落ち着いて主体的に学習に取り組む子ども ・規律を理解しすすんで守る子ども
第二中	未来を見つめ、自ら学び共に生きる子
第三中	・思いやりのある子ども ・すべての学習の基礎となる「聞き取る力」「考える力」「書く力」を身につけた子ども ・表現力やコミュニケーション能力を身につけた子ども
第五中	①自分を大切に、思いやりのある子 ②自分の思いや考えを表現できる子 ③基本的生活習慣・基礎学力・自ら学ぶ力・自尊感情を備えた子
第六中	・向上心を持って様々な課題に対処できる子ども（自尊感情の高揚） ・根気よく最後まで課題をやり抜く子ども ・自主、自立、責任ある行動がとれる子ども
片山中	◎人や社会とよりよく関わることができる子ども ◎落ち着いて学習に取り組む子ども １．心身ともに健やかで、友だちや様々な人々と豊かなコミュニケーションが図れる子ども。 ２．いろいろな立場にある人を理解・尊重し、節度と規律ある行動が取れる子ども。 ３．自ら考え、進んで学び、学習を生かすことができる子ども。 ４．多くの人と協力し、仕事をやり遂げ、自分の個性を伸ばそうと努力できる子ども。
佐井寺中	①夢や目標に向かって、主体的に取り組む子ども ②自分を大切にし、思いやりのある子ども ③地域の中で、仲間と共にたくましく生きる力を持つ子ども
南千里中	「友だちや地域とともにのびゆく子～つながろう、やってみよう、ともに学ぼう」
豊津中	自ら学び、共に生きる、心豊かな、自立した子ども
豊津西中	１．「こころやさしい思いやりのある子」 ２．「力を合わせ助け合う子」 ３．「自ら学び考えて行動する子」
山田中	○あいさつのできる子 ○最後までやりとげる子 ○自分の思いを伝えられる子
西山田中	自ら考え行動し、ともに助け合い協力できる子どもを育てよう
山田東中	１．「自らを律し、自他ともに大切にできる子」 ２．「考え、聞き、判断する子」 ３．「自分で考え、表現し、行動していく子」
千里丘中	自分の気持ちや考えを伝え合う子の育成
高野台中	○自ら進んで学ぶ子 ○気持ちよくあいさつできる子 ・明るく素直でやさしさと思いやりの心を大切にする子 ・学習のきまりが守れる子 ・自分のことは自分でできる子
青山台中	生命を大切にし、ふれ合い、語り合い、感じ合える子ども
竹見台中	「確かな学力」「豊かな心」「たくましい体」のバランスのとれた『総合的人間力』を備え、夢に向かって行動できる子ども。
古江台中	○自主、自律の精神を養い、協力実践できる児童・生徒 ○豊かな心情を持ち、身体的・社会的に健康な児童・生徒の育成 ○基礎学力を身につけ、勤労を尊び、創造性豊かな児童・生徒の育成

平成30年度（2018年度） 重点項目

4 確かな学力の育成

教育は、未来（あす）を拓く営みであり、子供たちの健やかな成長は全ての人々の変わらぬ願いです。この教育を通して、本市は子供たちに知・徳・体のバランスのとれた「総合的人間力」の育成をめざしており、「確かな学力」を育成する基盤となっています。予測不可能な社会に対応できる人間を育成するために、新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」を中心とした学習活動を展開していきます。*全国学力・学習状況調査結果の分析により、これまでの教育施策の成果と課題を検証し、授業改善等の具体的方策を小・中学校に示すことで、「確かな学力」の育成を図ります。また、放課後学習支援事業をはじめとする放課後の時間を活用した学力向上の取組を充実させることにより、児童・生徒の学習意欲や自学自習力のさらなる向上をめざします。

重点項目につながる教育ビジョンの目標・方向・施策

基本目標１　総合的人間力の形成

基本方向２　小中一貫教育を通して総合的人間力を育成します

施　　策６　確かな学力の育成

重点項目を構成する事業の概要及び実績

【事業名】放課後学習支援事業		【担当課】指導室	
児童・生徒の学習意欲の向上や自学自習力の育成を図るための学習支援者を配置し、放課後等に学習支援を行うことで、学力の向上をめざします。		【H30実績】 小学校　62% 中学校　49%	達成状況
【指標】 「自分で計画を立てて勉強している」と答えた児童・生徒の割合	【考え方】 全ての学校で「自分で計画を立てて勉強する」項目で全国値/吹田市（平成29年度小64.5%/61.6%、中51.5%/50.1%）を上回るよう、放課後学習を活用していく。	【R1目標値】 小学校　80% 中学校　70%	B
H29決算額　231　千円	H30当初予算額　277　千円	H30決算見込額　277　千円	

取組の状況と評価

全国学力・学習状況調査において、学習意欲の向上や自学自習力の育成に関する質問項目の回答結果が全国値を下回っており、課題が見られますが、小学校では前年よりも計画を立てて勉強している子供の率がわずかながら伸びました。

しかし、中学校において、指標についての肯定的回答した生徒の割合が半数を満たないことについては、本市の目指す、総合的人間力の育成においても課題と捉えています。

放課後学習支援事業では、自然災害や不審者情報により、実施校と派遣回数が前年度よりも大きく減少したものの、外部支援者の活用による取組の充実により、子供一人ひとりの自学自習力の向上へとつなげることができました。

今後の課題・方針

外部支援者による放課後学習支援事業については、実施日の調整等運営が困難なことから事業の縮小を含め検討しますが、授業の形態の工夫としての習熟度別指導や、各校ごとの取組による放課後等を活用した補充学習、家庭学習支援等により、学習意欲や自学自習力の向上を目指します。

平成30年度（2018年度） 重点項目

5 今日的課題に対応した教育の推進

本市では今日的課題に対応するため、情報教育、環境教育、福祉教育、防災教育等、様々な教育活動に取り組んでいます。特にグローバル化が進む社会の中で活躍できる国際性豊かな子供の育成を図ることが重要です。*英語指導助手を全ての小中学校に派遣するとともに、体験活動を通して、自然に英語でコミュニケーションをとることができるようにするなど、小学校外国語活動、中学校英語教育の充実を図ります。さらに、小学校1年生から授業の中で英語に慣れ親しむ活動ができるよう、全ての小学校を*教育課程特例校に位置づけ、9年間を見通した英語教育の充実を図ります。

また、新学習指導要領において、情報教育の充実や「主体的・対話的で深い学び」へのICT活用等が示されており、本市では平成30年1月に教職員1人に1台相当のパソコンが配備されるとともに、情報教育機器が更新され、教職員がICT機器を活用する機会が増えます。授業においても、教員が情報教育機器を活用することにより、わかりやすい授業を展開し、児童・生徒の更なる学びの充実を図ります。

さらに、「読書センター」及び「学習・情報センター」として学校図書館を活用した教育を充実させるとともに、*読書活動支援者の配置等、学校における読書活動推進体制づくりを進めます。

重点項目につながる教育ビジョンの目標・方向・施策

基本目標１　総合的人間力の形成

基本方向２　小中一貫教育を通して総合的人間力を育成します

施　　策９　今日的課題に対応した教育の推進

重点項目を構成する事業の概要及び実績

【事業名】英語教育推進事業		【担当課】指導室	
英語教育の充実を図るとともに、*国際理解教育を推進するため、様々な国の文化をもつ英語指導助手を中学校に配置します。また、小学校全学年に英語指導助手を配置し、英語に慣れ親しむことや積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成をねらいとした外国語活動を行います。		【H30実績】 43.2%	達成状況 C
【指標】 英検3級程度の英語力を有する中学校3年生の割合（H29年度48%）	【考え方】 児童・生徒の英語力の向上を図る。	【R1目標値】 70%	
H29決算額　66,739　千円	H30当初予算額　66,157　千円	H30決算見込額　66,109　千円	

【事業名】英語コミュニケーション体験事業		【担当課】指導室	
小学校4年生を対象に「*すいたえいごkids」で、英語だけの世界を楽しみながら、必然的に英語に触れる体験活動を行うことで、英語入門期の児童が英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする意欲の向上を図ります。		【H30実績】 99%	達成状況 A
【指標】 目標を達成したと自己評価した児童数／参加児童数 （H29年度96%）	【考え方】 参加児童が英語を使うことへの意欲関心を持つ。	【R1目標値】 100%	
H29決算額　327　千円	H30当初予算額　347　千円	H30決算見込額　327　千円	

【事業名】小学校英語マスター事業		【担当課】指導室	
小学校6年生全児童を対象に、エキスポシティ内にある「OSAKA ENGLISH VILLAGE」で、英語を使用して様々なプログラムの体験等、実践的な学習を行い、児童に自ら小学校外国語活動の中で学んだことが活用できたと実感を持たせ、中学校における英語学習への動機づけとなるように図ります。		【H30実績】 95%	達成状況 A
【指標】 目標を達成したと自己評価した児童数／6年生全児童数（平成29年度92%）	【考え方】 全ての児童が英語を用いてコミュニケーションを図ろうとすることができる。	【R1目標値】 100%	
H29決算額　5,715　千円	H30当初予算額　6,550　千円	H30決算見込額　6,550　千円	

【事業名】読書活動支援者配置事業		【担当課】指導室	
小・中学校に読書活動支援者を配置し、学校図書館の充実を図るとともに、児童・生徒の豊かで幅広い読書活動を支援します。		【H30実績】 小学校　33.4冊 中学校　3.7冊	達成状況 B
【指標】 一人当たりの年間図書貸し出し冊数 （平成29年度　小学校32.41冊、中学校3.85冊）	【考え方】 学校図書館を有効活用し、図書貸し出し冊数の増加を図る。	【R1目標値】 小学校　40冊 中学校　8冊	
H29決算額　52,138　千円	H30当初予算額　61,518　千円	H30決算見込額　60,099　千円	

【事業名】小学校情報教育機器整備事業		【担当課】教育センター	
授業において教員が情報教育機器を活用することにより、わかりやすい授業を実施し、児童の学習理解を深めます。		【H30実績】 82%	達成状況 B
【指標】 各小学校に配備しているプロジェクタ及び無線LANのアクセスポイントの稼働率	【考え方】 情報教育機器を有効活用し、わかりやすい授業を展開します。	【R1目標値】 100%	
H29決算額 150,215 千円	H30当初予算額 143,897 千円	H30決算見込額 142,708 千円	

【事業名】中学校情報教育機器整備事業		【担当課】教育センター	
授業において教員が情報教育機器を活用することにより、わかりやすい授業を実施し、生徒の学習理解を深めます。		【H30実績】 89%	達成状況 A
【指標】 各中学校に配備しているプロジェクタ及び無線LANのアクセスポイントの稼働率	【考え方】 情報教育機器を有効活用し、わかりやすい授業を展開します。	【R1目標値】 100%	
H29決算額 71,060 千円	H30当初予算額 75,413 千円	H30決算見込額 74,962 千円	

取組の状況と評価

「グローバル社会を生きぬくコミュニケーション力の育成」に向けた英語コミュニケーション体験事業「すいたえいごkids」を小学校4年生に対象に、「OSAKA ENLISH VILLEGE（体験型英語教育施設）」を活用した「*すいたえいごweek」を小学校6年生を対象に実施し、英語を用いたコミュニケーションの楽しさを十分に味わうことができるよう、活動内容の充実を図っています。また、全ての小学校が文部科学省から教育課程特例校の指定を受け、1年生から外国語活動を実施し、外国語で自分の考えや気持ちを伝え合う力や、主体的にコミュニケーションを図ることができる力の育成を図っています。また、中学校卒業までの9年間を見通した英語教育を展開してくための研究に努めています。加えて、全小・中学校に英語指導助手を派遣し、ネイティブスピーカーの発音や、外国の文化に触れる機会の充実を図り、違いを認め互いに尊重し合う態度の育成に努めています。

また、子供たちの豊かで幅広い読書活動を推進することを目的として、読書活動支援者の小学校での専任配置、中学校での2校兼務配置を実施し、ニーズに応じた計画的な図書館運営を図ることで、児童生徒の読書機会や読書量が増え、読書への関心が高まりました。

平成30年1月に教職員1人に1台相当配備された情報教育機器の利活用については、教育センター等から利活用の事例を発信したり、*ICT支援員が各校にて研修等を開催したりすることで、機器やソフトウェア等の操作方法、授業での具体的な活用方法等を提供してきました。引き続き情報教育機器を教職員が一層活用できるようにICT活用研修や活用事例報告等の充実に努めていきます。

今後の課題・方針

「外国語活動の充実」においては、小・中学校英語担当者会等による教員研修の実施や、加配教員等の活用を進めていますが、中学校3年時における英検3級程度の英語力につなげるために、日々の授業改善に取り組む必要があります。今後も、英語でのコミュニケーション体験や外国の文化に触れる体験活動等の充実に努め、児童・生徒が違いを認め、互いに尊重し合う態度の育成に努めます。

また、「言語能力の確実な育成」においては、児童・生徒が「読書センター」及び「学習・情報センター」としての学校図書館を活用できるよう、読書活動支援者の配置の充実等、さらなる推進体制の整備を目指します。

さらに、「情報教育の充実」においては、情報教育機器の利活用について、各校に引き続き発信することによって、教員のITリテラシの向上を図り、教員が新学習指導要領の「主体的・対話的で深い学び」のある授業を実現できるように支援していきます。

平成30年度英語指導助手・読書活動支援者の配置人数

	英語指導助手		読書活動支援者
	非常勤職員	派遣	*臨時雇用員
小学校	10人	－	35人
中学校	－	18人	9人

すいたえいごkidsの様子

すいたえいごweekの様子

平成30年度（2018年度） 重点項目

6 生徒指導の充実

いじめや暴力行為等の問題行動の発生、特別な支援を必要とする児童生徒数の増加、不登校の増加など学校現場を取り巻く環境は複雑・困難化するとともに、学校に求められる役割は拡大・多様化しています。いじめ・不登校、暴力行為等の未然防止や早期解決を図るために、*スクールソーシャルワーカー(SSW)の配置を充実します。また、子どもサポートチームの一員として学校教育に精通した弁護士（スクールロイヤー）を活用し、学校が抱える様々な教育課題の未然防止、早期解決を図ります。更に、中学生の豊かな感性、よりよく生きていこうとする実践的態度を導く生徒会活動をさらに充実させ、自ら生きる力を育みます。

重点項目につながる教育ビジョンの目標・方向・施策

基本目標１　総合的人間力の形成

基本方向２　小中一貫教育を通して総合的人間力を育成します

施　　策10 生徒指導の充実

重点項目を構成する事業の概要及び実績

【事業名】子どもサポートチーム事業		【担当課】指導室	
いじめ・不登校・児童虐待等、個別課題を抱える児童・生徒へのケアや事案の未然防止、早期解決のため、社会福祉士等の資格を有するスクールソーシャルワーカー(SSW)を含む子どもサポートチームを編制し、福祉の専門的な見地から助言を受けながら各学校の生徒指導体制を強化し、児童・生徒や家庭、学校への支援を行います。また、学校教育に精通した弁護士（スクールロイヤー）を活用し、学校が抱える様々な教育課題の未然防止、早期解決を図ります。		【H30実績】 71%	達成状況 A
【指標】 課題が解決もしくは好転した児童・生徒の割合	【考え方】 年度末までに、全ての児童・生徒の課題解決を目指すが、年度をまたいで支援を継続する事案もある。	【R1目標値】 80%	
H29決算額　30,492　千円	H30当初予算額　31,155　千円	H30決算見込額　31,155　千円	

【事業名】生徒指導推進事業		【担当課】指導室	
市内18校の中学校の代表による意見交流会を行い、主張大会を実施し各校の代表による発表を行っています。また、各中学校ブロックにおけるいじめ根絶に向けての取組発表やいじめ撲滅宣言を通して、児童・生徒の自主・自治活動によるいじめ撲滅に向けての取組を推進します。また、大阪府中学校「生徒会サミット」参加校からの報告を行います。		【H30実績】 18校	達成状況 A
【指標】 生徒会活動、自治活動によるいじめ撲滅に向けた取組を進めている学校	【考え方】 学校における諸問題を生徒自らが発表するものであり、数値的指標は示すことができないため。	【R1目標値】 18校	
H29決算額　191　千円	H30当初予算額　329　千円	H30決算見込額　329　千円	

取組の状況と評価

SSWを、中学校1ブロックに1名を配置するとともに、スクールロイヤーへの相談体制を整備することで、各校の生徒指導体制の強化を図りました。学校生活における子供たちの問題行動等について、福祉や法的な観点から見立てを行うことができ、児童虐待やいじめ等の早期発見、早期解決につなげることができました。

吹田市中学校「中学生の主張」大会の中で、「いじめ根絶に向けての各校の取組」を代表校の生徒が紹介し、いじめ撲滅宣言を行いました。また、今年度は、意義：何のために、成果：何ができるようになったか、輪：小学校や他の中学校へ、を意識して、いじめ撲滅の取組を行うことを伝えました。

今後の課題・方針

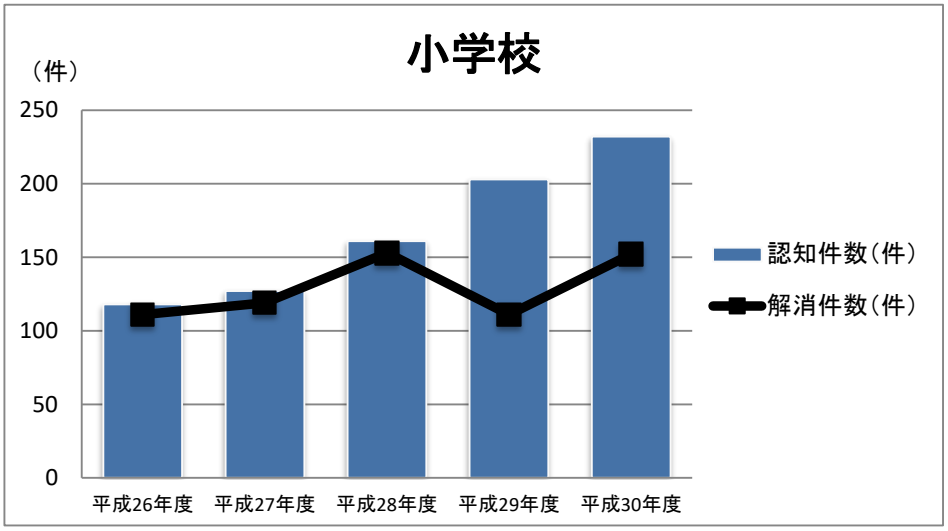
いじめや不登校、児童虐待等の件数が増加傾向にあり、今後SSWの配置をさらに拡充する等、児童・生徒への支援体制を強化する必要があります。

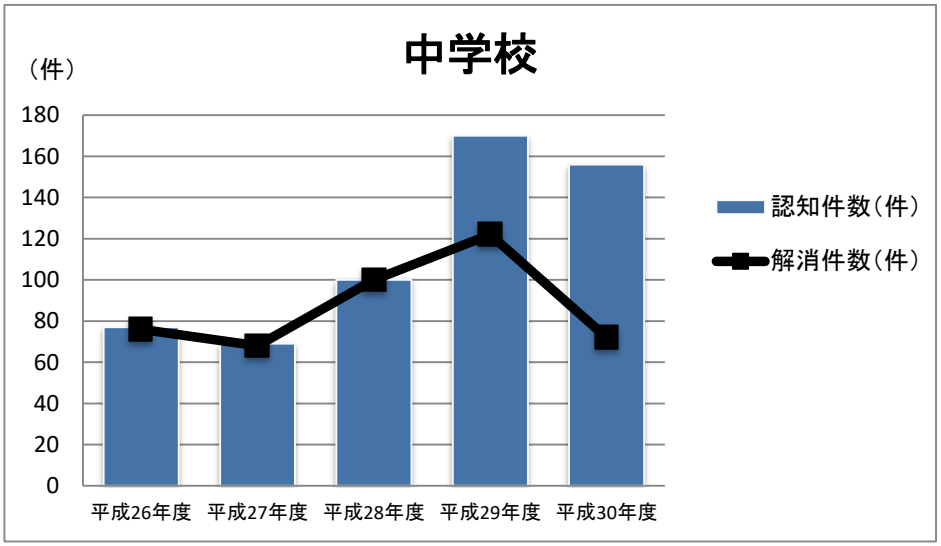
「学校いじめ防止基本方針」にある年間計画に沿った取組を進めるとともに、児童・生徒会が中心となり、いじめ撲滅の取組を行うことで、SNSのトラブル等をはじめ、いじめにつながるケースの未然防止につなげていきます。また、令和元年度は、中学校ブロックで作成した情報モラル教育カリキュラムに基づいて、各ブロックで取組を進めていきます。

小中学校における問題行動の推移

①小中学校におけるいじめ認知件数及び解消率の推移

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
小学校	認知件数（件）	118	127	161	203	232
	解消件数（件）	111	119	153	111	152
	解消率（%）	94.1	93.7	95	54.7	65.5
中学校	認知件数（件）	77	69	100	170	156
	解消件数（件）	76	68	100	122	72
	解消率（%）	98.7	98.6	100	71.8	76.9





グラフの解説

<認知件数について>
いじめの認知件数が増加傾向にあるのは、いじめ防止対策推進法の施行（平成25年度）に伴い、いじめの定義の変更がされたことで、各校がいじめの積極的認知、早期発見、早期対応を行っていることが要因である。（全国的にもいじめの認知件数は増加傾向。）

<解消率について>
平成29年度から、いじめが「解消している」という状態については、少なくとも次の2つの要件が満たされている必要があると定義された。

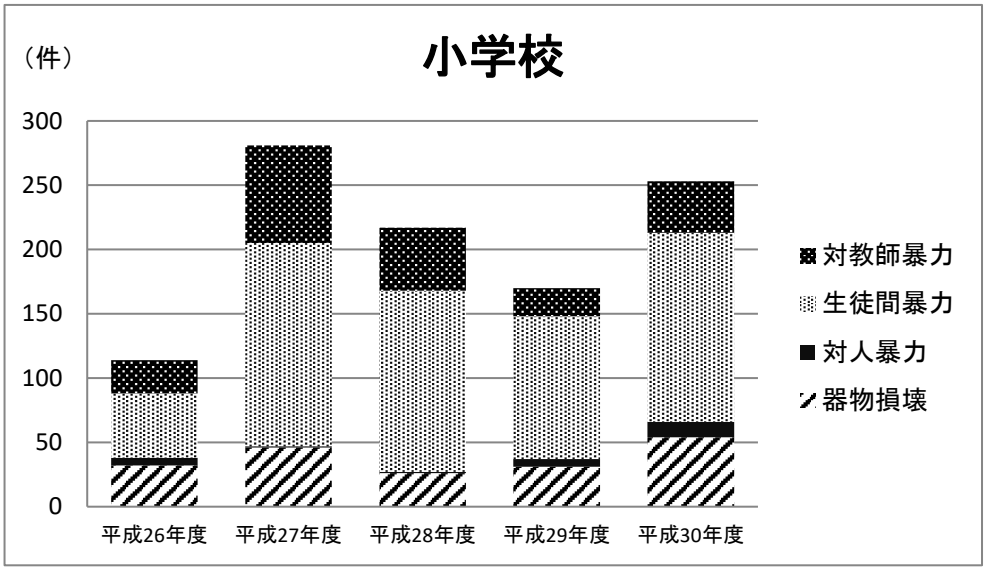
①いじめに係る行為が止んでいること。（被害者に対する心理的又は物理的な影響を与える行為が止んでいる状態が相当の期間継続していること。相当な期間とは、少なくとも3か月を目安。）

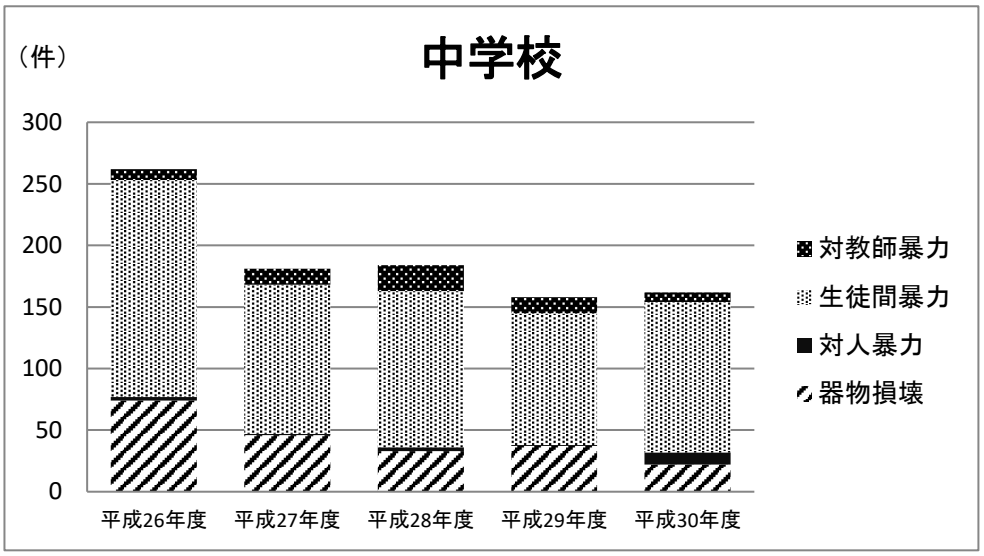
②被害児童生徒が心身の苦痛を感じていないこと。

そのため、いじめが「解消している」と判断するには少なくとも3か月以上の見守り期間が必要となり、平成29年度より3月末時点で解消率が低くなる要因となっている。

②小中学校における暴力行為発生件数の推移

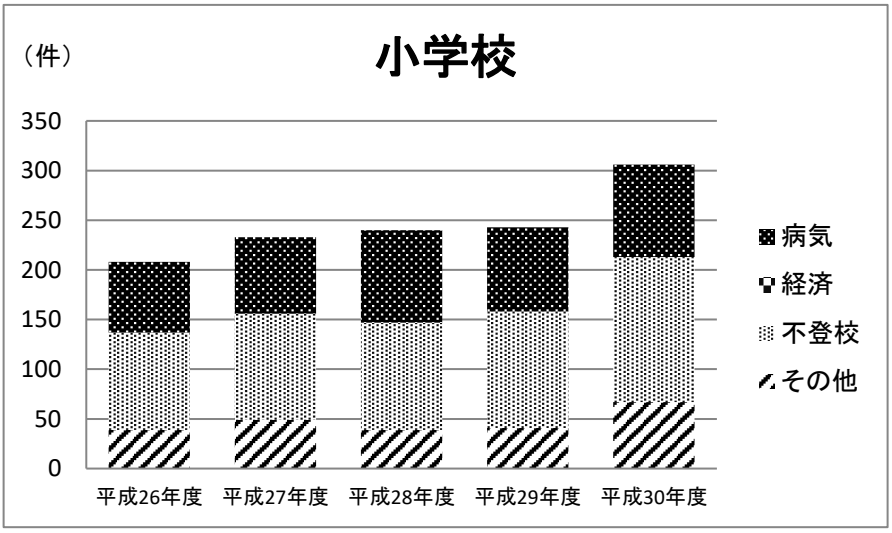
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
小学校	総数	114	281	217	170	253
	対教師暴力	26	76	49	22	40
	児童間暴力	50	158	141	111	147
	対人暴力	6	1	1	6	12
	器物損壊	32	46	26	31	54
中学校	総数	262	181	184	158	162
	対教師暴力	9	13	21	13	8
	生徒間暴力	176	121	127	107	122
	対人暴力	3	1	3	1	10
	器物損壊	74	46	33	37	22

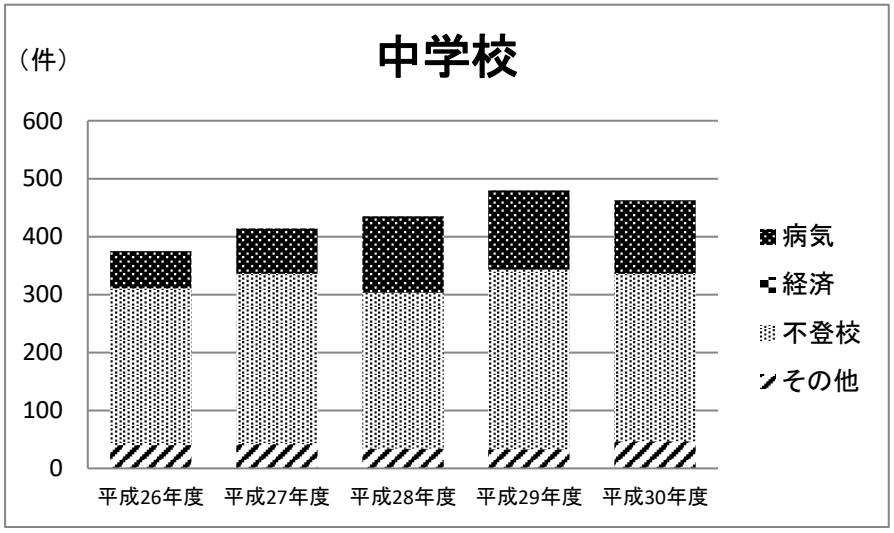




③小・中学校における長期欠席児童生徒数の推移

		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
小学校	総数	208	233	240	244	306
	病気	71	77	93	85	93
	経済	0	0	0	0	0
	不登校	98	107	108	117	146
	その他	39	49	39	41	67
中学校	総数	375	414	435	480	463
	病気	64	78	132	137	127
	経済	0	0	0	0	0
	不登校	271	294	269	310	289
	その他	40	42	34	33	47





平成30年度（2018年度） 重点項目

7 特別支援教育の充実

平成28年度に障害者差別解消法が施行され、学校でも*基礎的環境整備の推進及び*合理的配慮の提供が求められています。児童・生徒一人ひとりに応じた適切な特別支援教育を行うために、支援学級・通級指導教室を設置するとともに、「*個別の教育支援計画」及び「*個別の指導計画」を作成・活用することで、「ともに学び、ともに育つ」教育課程の編成・実施を推進します。平成29年度からは、小学校1年生全巡回を1学期より始め、特別な教育的支援を必要とする児童の早期発見と対応を学校と連携して行っています。

また、現在取り組んでいる小学校1年生全巡回での成果と課題を踏まえ、学習障がい（LD）、注意欠陥・多動性障がい（ADHD）、自閉症スペクトラム（ASD）などの特別な教育的支援を必要とする園児・児童・生徒の早期発見と対応を図ります。

重点項目につながる教育ビジョンの目標・方向・施策

基本目標1　総合的人間力の形成

基本方向2　小中一貫教育を通して総合的人間力を育成します

施　　策13　特別支援教育の充実

重点項目を構成する事業の概要及び実績

【事業名】障がい児介助員配置事業		【担当課】指導室	
教育上配慮を要する児童・生徒が在籍する学校に、障がい児介助員を配置することで、児童・生徒の生活介助や安全確保にあたります。		【H30実績】 3.63人	達成状況 B
【指標】 支援学級在籍児童・生徒数／配慮を要する児童・生徒に関わる教職員数（平成29年度 3.47人）	【考え方】 支援学級在籍児童・生徒を指導する教職員数を増やし、児童・生徒の安全を確保する。	【R1目標値】 3.5人	
H29決算額　240,754　千円	H30当初予算額　227,429　千円	H30決算見込額　224,706　千円	

【事業名】市立小中学校医療的ケア体制整備推進事業		【担当課】指導室	
医療的ケアを要する児童・生徒が在籍する学校に看護師資格を有する介助員を配置し、安全な学校生活と学習活動を保障します。		【H30実績】 100%	達成状況 A
【指標】 看護師資格を有する介助員数／医療的ケアを要する児童・生徒数（平成29年度全員に配置）	【考え方】 医療的ケアを要する全ての児童・生徒に看護師資格を有する介助員を配置する。	【R1目標値】 100%	
H29決算額　23,695　千円	H30当初予算額　28,736　千円	H30決算見込額　24,857　千円	

【事業名】支援学級支援事業		【担当課】指導室	
肢体不自由児センター校への通学支援・肢体の機能回復訓練・診察の実施や階段昇降機の配置、就学指導等により、支援学級在籍の児童・生徒等を支援します。		【H30実績】 81%	達成状況 B
【指標】 支援学級在籍児童・生徒に係る相談・要望の対応率。（平成29年度は84%　）	【考え方】 支援学級在籍児童・生徒の教育的ニーズに応じた支援教育を図る。	【R1目標値】 100%	
H29決算額　9,971　千円	H30当初予算額　14,710　千円	H30決算見込額　12,716　千円	

【事業名】特別支援教育推進事業		【担当課】教育センター	
*発達相談員を活用した巡回相談を行ったり、研修を通して、教職員・保護者への理解・啓発を図ることによって、学校・園が発達に課題のある子供を早期発見し、生活面や行動面での二次障がいを防止しながら、有効な手立てを検討するようなシステム作りや、子供の特性に応じた教育活動の支援を行います。		【H30実績】 306回	達成状況 A
【指標】 巡回相談訪問回数	【考え方】 週あたり9回の学校訪問を35週間実施	【R1目標値】 315回	
H29決算額　6,572　千円	H30当初予算額　7,840　千円	H30決算見込額　7,069　千円	

取組の状況と評価

「個別の教育支援計画」及び「個別の指導計画」を作成し、「ともに学び、ともに育つ」の教育課程を編成し、実施しました。

障害者差別解消法が施行されたことを受け、管理職及び支援教育担当者に対しての研修等を行い、児童・生徒一人ひとりに応じた適切な特別支援教育が取り組まれるよう、教職員の意識の向上を図りました。

教育上配慮を要する児童・生徒が在籍する学校に障がい児介助員を、また医療的ケアを要する児童・生徒が在籍する学校に看護師免許を有する介助員を配置し、安全な学校生活と学習活動の保障に努めました。

発達相談員や通級指導教室担当者による巡回相談を実施するとともに、全小学校1年生を対象とした巡回相談については、開始する時期を早め、特別な教育的支援を必要とする子供の早期発見・早期支援に学校と連携し取り組みました。

特別支援教育研修では、「個別の指導計画の作成」について年間を通して取り組み、教職員の特別支援教育への理解・啓発とともに、特別な教育的支援が必要な子供への支援の充実につながるよう取り組みました。

今後の課題・方針

学校を訪問して、直接児童・生徒の状況を把握し、また就学前の園児の状況を早期に把握することで、基礎的環境整備を計画的に進めていきます。対象となる児童・生徒は年々増加していることから、更なる支援体制の充実が必要です。

巡回相談や、教職員・保護者を対象とした研修を通して、子供一人ひとりのニーズに応じた教育活動の支援に取り組みます。また、小学校1年生全巡回の充実をはじめ、特別な教育的支援を必要とする子供への早期支援につながるよう、学校支援に努めます。

平成30年度介助員・看護師の配置人数

	介助員		看護師
	非常勤職員	臨時雇用員	臨時雇用員
小学校	39人	34人	17人
中学校	7人	12人	2人

平成30年度（2018年度） 重点項目

8 生涯学習プログラムの充実

社会全体で解決しなければならない課題を学習することにより、ライフスタイルや価値観の多様化・複雑化した現代を生き抜く力を身につけることが、生涯学習の重要な意義であるため、生涯学習関連施設では、相互の連携を図るとともに、すべての市民を対象とした幅広い学習の場及び機会の提供と、市民の多様な学習ニーズに応じた学習内容の充実を図ることで、市民の様々な生涯学習活動を支援します。

そのため、まなびの支援課では、生涯学習吹田市民大学特別講座等を歩いて行ける身近な学びの場である地区公民館との共催により実施し、学習の機会を提供するとともに、ICTを活用した生涯学習情報の発信を進める等市民の学びを支援し、「第3次生涯学習（楽習）推進計画」を推進します。また、夢と希望を広げる出会い事業を推進し、子供たちが夢や希望を持ち、将来を考えるきっかけを提供しています。

図書館では、様々な価値観を持つ市民の知的好奇心を充足させることを目指します。他部局と連携しながら幅広い市民の学習意欲に応える講座を企画するとともに、住民のニーズを調査しながら、より楽しく豊かな人生を送るための生涯学習を支援していきます。

旧西尾家住宅（吹田文化創造交流館）については、貴重な文化財施設でありますが、経年による劣化が進んでいることから、今後さらに施設の保存に努めてまいります。文化財保護につきましては、より文化財保護の啓発を推進するため、埋蔵文化財等の文化財の調査を行い、報告書等の作成を進めるとともに、史跡等の管理、指定等文化財の所有者等に補助金の支出を行い、文化財の保存、活用等を図ってまいります。

博物館では日本を代表する宗教芸術家である「西村公朝」の作品を収蔵したことを記念し、特別展「収蔵記念　西村公朝展」を開催し、北大阪健康医療都市（健都）の中心街区の多くが完成することを記念し、特別展「吹田操車場遺跡展」を開催します。

重点項目につながる教育ビジョンの目標・方向・施策

基本目標１　総合的人間力の形成

基本方向３　人生をより楽しく豊かに生きる生涯学習・生涯スポーツを進めます

施　　策１５　生涯学習プログラムの充実

重点項目を構成する事業の概要及び実績

【事業名】生涯学習吹田市民大学事業		【担当課】まなびの支援課	
「第3次*生涯学習推進計画」に基づき、現代的な課題を学ぶ特別講座、市内の各大学との共催により行う大学連携講座をとおして、市民の学びを支援します。		【H30実績】 272人	達成状況 A
【指標】 生涯学習吹田市民大学特別講座の受講者数	【考え方】 特別講座を地区公民館3館にて実施するものとし、3回連続講座を30名が受講した場合の受講者数。	【R1目標値】 270人	
H29決算額　1,484　千円	H30当初予算額　1,697　千円	H30決算見込額　1,697　千円	

【事業名】地区公民館事業		【担当課】まなびの支援課	
趣味、教養を通した、身近な興味関心を学びあう講座や、現代的課題解決のための知識を深める講座から、市職員の専門的な知識を活用した、気軽に行うことのできるストレッチ体操などの健康づくりの講座、図書、地域の歴史といった講座を多角的に展開し、「歩いて行ける身近な学びの場」である地区公民館でのさまざまな学びを提供していきます。		【H30実績】 51,706人	達成状況 B
【指標】 地区公民館主催講座の延べ受講者数	【考え方】 平成27年度の受講者数を基準として年0.2%ずつ増加した場合の受講者数。	【R1目標値】 57,124人	
H29決算額　10,757　千円	H30当初予算額　11,964　千円	H30決算見込額　9,982　千円	

【事業名】夢と希望を広げる出会い事業		【担当課】まなびの支援課	
児童・生徒等が、吹田市にゆかりがあり優れた能力やキャリアを有し、様々な分野で活躍する方々と出会い、講演や実技指導などをとおして、夢や希望を持って努力することの大切さを学び、将来を考える機会を提供します。		【H30実績】 5回	達成状況 A
【指標】 夢と希望を広げる出会い事業の実施回数	【考え方】 小・中学校において年3回、*地域教育協議会において年2回、それぞれ実施する場合の実施回数。	【R1目標値】 5回	
H29決算額 137 千円	H30当初予算額 175 千円	H30決算見込額 175 千円	

【事業名】図書館主催行事事業		【担当課】中央図書館	
市民の読書活動を支援し、生涯学習の幅を広げるために講座を企画実施しています。加えて子供たちの読書の振興と図書館の利用の増加を図るため、人形劇や子供向け講演会などを実施します。博物館やまなびの支援課等と連携した講座の企画により、様々な市民の利用を促します。		【H30実績】 23,979人	達成状況 B
【指標】 行事の参加者数	【考え方】 行事の参加をきっかけに図書館利用へとつなげるために、5年間で10%の増加を目標とする。	【R1目標値】 3万人	
H29決算額 784 千円	H30当初予算額 905 千円	H30決算見込額 910 千円	

【事業名】旧西尾家住宅(吹田文化創造交流館)保存活用事業		【担当課】文化財保護課	
旧西尾家住宅は、建物等が国指定重要文化財、庭園が国登録記念物(名勝)となっており、現在国所有で管理を吹田市が行っています。同住宅の価値を損なわないよう適切に保存し、文化財としての価値や大切さを伝えるため、一般公開を行います。また、文化財を身近に感じられるような活用(茶会、講演会、コンサート、所蔵資料品の展示会など)を行います。さらに、耐震診断の成果をもとに、耐震対策や保存修理等について府・文化庁と協議を進めます。		【H30実績】 834人	達成状況 B
【指標】 過去5年の年間平均入館者数	【考え方】 国有の重要文化財であり、適切に保存し将来の世代へ伝える必要がある。よって、公開・活用にあたっては、保存にもたらす影響について認識した上で慎重に検討することが求められ、単純に目標数値を設定することにはなじまないが、過去5年間の平均入館者数を目標値とする。	【R1目標値】 7,650人	
H29決算額 32,444 千円	H30当初予算額 23,386 千円	H30決算見込額 20,989 千円	

【事業名】文化財保存啓発事業		【担当課】文化財保護課	
文化財調査の成果をまとめ、報告書の作成を行います。教育委員会で管理する史跡等の管理に努め、文化財保護の啓発を推進するために文化財説明板を設置します。また、文化財の保存・活用をはかるため、指定・登録文化財の所有者等に補助金を支出します。		【H30実績】 10件	達成状況 A
【指標】 補助金等の交付件数	【考え方】 文化財の補助金は文化財の保存のため、現状変更という私有財産権の制限を課すことに対する補償措置とされている。そのため案件に対して精査、金額の決定を行うものであり、件数による数値設定はなじまない。目標値は過去3年間の平均件数。	【R1目標値】 6件	
H29決算額 8,202 千円	H30当初予算額 6,248 千円	H30決算見込額 5,668 千円	

【事業名】公開展示事業		【担当課】文化財保護課	
吹田の通史や千里丘陵の窯業生産をテーマとした常設展示に加え、特別展として春季は今後博物館の展示の柱ともなる西村公朝作品の博物館収蔵を記念して特別展「収蔵記念　西村公朝展」を開催し、秋季には北大阪健康医療都市(健都)の中心街区の多くが完成することを記念し、特別展「吹田操車場遺跡展」を開催します。また、自然と環境をテーマに市民参画をとり入れる夏季展示、むかしのくらしをテーマとした学校教育連携展示を実施します。		【H30実績】 43,321人	達成状況 A
【指標】 過去5年間の博物館年間入場者数	【考え方】 入館者は展示テーマによって左右されることが多く、数字のみでは評価できない側面があるが、評価の一部として数値化されたものが必要である。	【R1目標値】 32,947人	
H29決算額 10,857 千円	H30当初予算額 10,473 千円	H30決算見込額 9,585 千円	

取組の状況と評価

生涯学習吹田市民大学事業については、現代的課題である健康づくりをテーマに、身近な学びの場である地区公民館との共催で開催し、受講者から好評を得ました。

また、バーチャル生涯学習センターを教育委員会のホームページ上に開設し、いつでもどこでも学べる環境を整備しました。

夢と希望を広げる出会い事業については、小学校において3回実施したほか、市立吹田サッカースタジアムにおいて文化スポーツ推進室との共催で、ガンバ大阪や危機管理室の協力のもと、21校1,879名の小学生が受講し、ガンバ大阪のコーチの講演やフィールドでのサッカーパスを体験しました。それぞれの事業に参加した子供たちの感想からは、直接プロの技術を見たり、話を聴いたりしたことでたくさん学んだことが伺えました。

図書館の主催行事事業では、成人向けには文化教養講座をはじめ、健康医療情報やビジネスなど幅広いテーマの講演会や書庫開放デー、まち歩きなど、座学に限らず幅広い内容の講座を実施し、好評を得ました。子供向けには、年齢や興味・関心にあった行事を実施していますが、対象となる子供だけでなく市民の専門ボランティアにとっても自己実現の場となっています。

国の重要文化財である旧西尾家住宅と国の登録有形文化財である旧中西家住宅については、建物に続き、平成25年には庭園も国の登録記念物となり、文化財としての重要性が増しています。旧西尾家住宅については、平成28・29年度に実施した耐震診断の結果、耐震性を満たしておらず大規模修繕を計画しています。また、旧中西家住宅については、平成30年の大阪北部地震と台風21号により多大な被害を受け、来訪者の安全を確保できない状態になったことから、臨時休館し速やかに復旧に取り組みました。

博物館については、春季特別展、秋季特別展など企画展を6回実施しました。学校教育と連携した取組として、中学校教諭の協力を得ながら吹田の歴史を学ぶ教材を刊行しました。また、公民館・図書館と連携し、講座や講演会、体験学習等、数多くの事業を実施しました。地域連携の取組として*北大阪ミュージアム・ネットワークによる北大阪ミュージアムメッセ、シンポジウムを実施しました。

今後の課題･方針

公民館の主催講座は趣味・教養をテーマとしたものが依然多いものの、少しずつ現代的課題の講座への受講者集が増加しており、引き続き、歩いて行ける身近な学びの場として幅広い学びの機会を提供していきます。また、生涯学習吹田市民大学の講座を大学や公民館との共催により実施したり、ICTを活用し生涯学習情報を発信したりするなど、「第3次生涯学習（楽習）推進計画」に基づき、市民の学びを支援します。さらに、吹田にゆかりのある、様々な分野で活躍される方々を招へいし、子供たちが夢や希望を持ち、将来のことを考えるきっかけの場を提供します。

図書館では学校図書館と連携し、団体貸出やごりまる便（自動車文庫）での貸出をはじめ、学校図書館に配置されている読書活動支援者へのサポートプログラムを実施するなど、子供たちの読書活動を支援していますが、今後、新学習指導要領の施行も見据え、より一層、連携を強化し、子供たちの読書活動の機会を提供します。

博物館では、地域の歴史資料等の収集や調査研究を行うとともに、常設展示、特別展、企画展、学校等と連携した特別企画等、幅広い催事を企画・実施し、市民の多様な生涯学習を支援します。

平成30年度（2018年度） 重点項目

9 青少年の仲間づくり・居場所づくりの推進

国の*放課後子ども総合プランでは、全ての児童が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう、こどもプラザ事業と留守家庭児童育成室事業を一体型として、同一小学校内で連携して進めることをめざしています。

本市では、既に両事業を一体型として実施しており、それぞれの事業が下記の目標を掲げながら、更に連携が深まるよう活動プログラムの充実等を図っていきます。

(1)こどもプラザ事業

小学校の施設や地域における学習資源等を活用し、平日の放課後等の子供たちの安心・安全な居場所を提供する「*太陽の広場」と、土曜日等に様々な体験活動の場となる「地域の学校」を通じて、子供の自主性、創造性等を育んでいます。

児童数の多い学校では、教室確保や見守りボランティアの確保が課題となっていますが、今後も、地域の方々の協力を得ながら、市民主体の協働による継続的な実施を進めるとともに、開催回数の増加等全市的な拡充を進め、青少年の仲間づくり、居場所づくりの推進を図ります。

(2)留守家庭児童育成室事業

保護者の労働等の理由により、放課後に家庭で必要な保育を受けることが困難な児童を対象に、家庭に代わる居場所として小学校内に留守家庭児童育成室を開設しています。

専任の指導員が保育を行い児童の安心・安全を確保し、健全育成を図るとともに保護者の就労を支援しています。

近年、ニーズが高揚し、入室児童数や利用を希望する人が増え続けています。待機児童を生じないよう提供体制の確保に努め、放課後における児童の居場所づくりを推進します。

重点項目につながる教育ビジョンの目標・方向・施策

基本目標2　社会全体の教育力の向上

基本方向6　地域全体で教育力の向上を図ります

施　　策27　青少年の仲間づくり・居場所づくりの推進

重点項目を構成する事業の概要及び実績

【事業名】こどもプラザ事業・こどもプラザ運営事業		【担当課】青少年室	
こどもプラザ事業では、小学校の施設や地域における学習資源等を活用し、平日放課後等の子供たちの安心・安全な居場所を提供する「太陽の広場」と、土曜日等に様々な体験活動の場となる「地域の学校」を通じて、子供の自主性、創造性などを育んでいます。 活動プログラムの充実や連携会議の開催などにより、国の放課後子ども総合プランのめざす「太陽の広場」と「留守家庭児童育成室」を一体型として更に連携を進めます。		【H30実績】 全36小学校	達成状況 A
【指標】 「太陽の広場」の開催校	【考え方】 全小学校での実施をめざす。	【R1目標値】 全36小学校	
H29決算額　32,912　千円	H30当初予算額　37,008　千円	H30決算見込額　31,154　千円	

【事業名】留守家庭児童育成室事業・留守家庭児童育成室運営委託事業		【担当課】放課後子ども育成課	
児童福祉法に基づく、放課後児童健全育成事業。 留守家庭児童育成室で、指導員が児童の健全育成を図ります。 開室時間は月曜日から金曜日の午後1時（学校休業期間は午前8時30分）から5時まで、延長保育は6時30分まで。第4土曜日の午前8時30分から午後5時まで。		【H30実績】 3,522人	達成状況 A
【指標】 入室児童数	【考え方】 保育を必要とする1年生から4年生の児童	【R1目標値】 3,990人	
H29決算額　966,670　千円	H30当初予算額　1,215,698　千円	H30決算見込額　1,108,597　千円	

【事業名】留守家庭児童育成室管理事業		【担当課】放課後子ども育成課	
ニーズの高揚に対応し、児童を受入れるための施設確保や整備を行い、保育の提供体制を確保します。 また、老朽化した施設や設備の改善を図ります。		【H30実績】 0人	達成状況 A
【指標】 待機児童数	【考え方】 施設の確保・整備を行い、保育を必要とする児童を受入れる。	【R1目標値】 0人	
H29決算額　72,066　千円	H30当初予算額　114,216　千円	H30決算見込額　102,452　千円	

取組の状況と評価

平成26年7月に策定された「放課後子ども総合プラン」に基づき、放課後児童クラブと放課後子供教室の両事業の整備を行い、平成30年度も全36小学校で両事業が相互に協力・連携しながら国の目指す一体型として実施しました。

また、両事業の児童が参加できる体験活動の場を提供する「活動プログラム」の実施や、学校、見守りボランティア（フレンド）、青少年室、留守家庭児童育成室指導員による連絡会議の開催のほか、合同避難訓練の実施、留守家庭児童育成室のイベントへの協力・参加など更なる連携にも取り組みました。

留守家庭児童育成室においては、年々増加する入室児童に対応するため、３か所で増築するなど、施設確保を進めました。また、課題となっている指導員不足を解消するため、運営業務委託の一層の推進や幅広い採用活動を実施し、保育の提供体制の確保を図りました。

今後の課題･方針

本市では、こどもプラザ事業は国の「放課後子ども総合プラン」に掲げる「一体型」として実施し、定着しつつありますが、児童数の増加により、活動場所の確保や見守りボランティア（フレンド）の確保など、継続的に実施する上での課題が生じています。

また、平成30年度は地震や台風による中止や、不審者の出現などによる一時的な休止もあり、継続的なブロックアドバイザーによる巡回や支援が必要です。

引き続き、「地域の子供は地域で守り育てる」取組として、学校・地域・家庭・行政の連携の下で課題の解消に努めながら、「安心・安全な子供の居場所づくり」の充実を目指します。

留守家庭児童育成室では、平成29年度から対象学年を4年生まで拡大して児童を受け入れましたが、5、6年生までの拡大については、保育内容や受入体制の確保方策を総合的に検討した上で、慎重に進めていく必要があります。

平成30年度（2018年度） 重点項目
10 青少年相談の充実 *ひきこもり、ニート、不登校など、青少年が抱える問題が深刻化、複雑化する中で、社会とのつながりが希薄になった青少年やその家族が孤立することなく、いつでも相談できる体制を充実させていきます。 子ども・若者育成支援推進法に基づき設置した吹田市*子ども・若者支援地域協議会が中心となり、子ども・若者支援マップの配布などあらゆる機会を通じて相談窓口の存在を積極的に周知するとともに、関係機関の連携を更に強化し、訪問相談（アウトリーチ）による支援にも力を入れるなど、青少年に寄り添いながら、セーフティーネットの拡大に努めます。
重点項目につながる教育ビジョンの目標・方向・施策
基本目標２　社会全体の教育力の向上 基本方向６　地域全体で教育力の向上を図ります 施　　策30　青少年相談の充実

重点項目を構成する事業の概要及び実績

【事業名】青少年活動サポートプラザ青少年相談事業		【担当課】青少年室	
臨床心理士、社会福祉士、精神保健福祉士、キャリアコンサルタントの資格を有した専門相談員がひきこもりやニート、不登校、いじめなど様々な理由で社会との関係が希薄になった青少年とその家族に対し、相談をはじめ、居場所や家族会、グループワーク、各種講座などの支援事業を実施するとともに、ケースに応じて関係機関と丁寧な連携を図ります。		【H30実績】 222件	達成状況 A
【指標】 1年度における新規相談件数	【考え方】 ひとりでも多くの青少年の支援を目指していく。	【R1目標値】 260件	
H29決算額　35,715　千円	H30当初予算額　38,146　千円	H30決算見込額　37,759　千円	

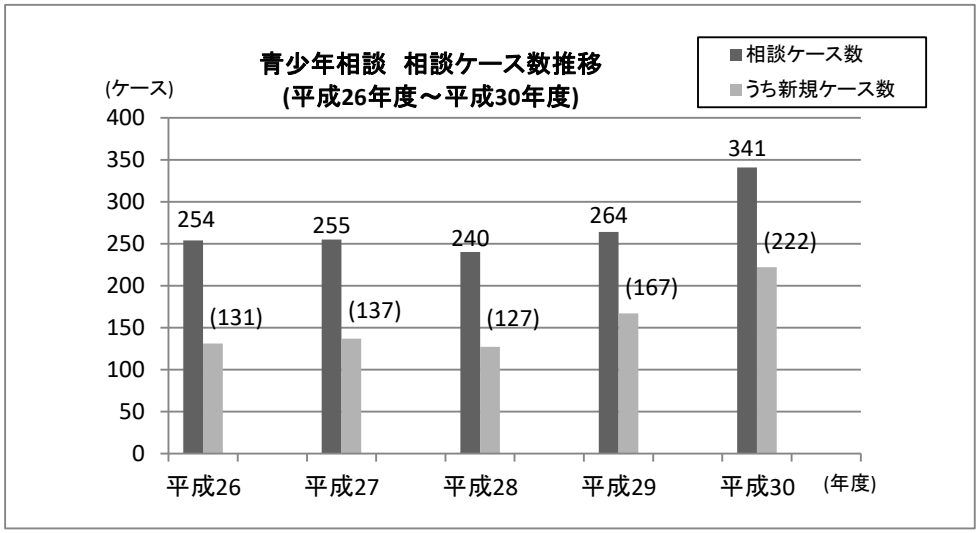
取組の状況と評価

青少年相談事業については、平成30年度の新規相談件数が222件となり、平成29年度と比較して約32.9%増加しました。他の支援機関同士の勉強会を積極的に行い相互に業務の理解を深めたこと、内閣府の「子ども・若者支援地域ネットワーク強化推進事業」として子ども・若者支援地域協議会の実務者を対象とした研修を行い、アウトリーチの方法など現場担当者のスキルアップを図ったことなどにより、支援機関同士の連携が一層強化され、総がかりで支援していこうという意識が高まり、件数増加につながったと考えられます。

今後の課題・方針

青少年を取り巻く環境はそれぞれ異なり、彼らが抱える困難な状況も、経済的な困窮、いじめ、不登校、ひきこもり、障がい、虐待など、非常に多岐にわたるため、支援機関同士の連携がますます重要なものとなっています。

今後も引き続き、子ども・若者支援地域協議会を充実させ、セーフティーネットの拡充を図るとともに、子ども・若者総合相談センターとして、青少年の課題に幅広く対応していきます。



内容別相談ケース数（　)内は新規ケース数

年度	ひきこもり	不登校	いじめ	性格・行動	発達障害	精神疾患	就労・進路	問題行動・非行	子育て	家族関係	虐待	その他	合計
平成26	53 (17)	46 (25)	1 (1)	25 (12)	9 (4)	12 (2)	51 (19)	4 (2)	34 (33)	0 (0)	0 (0)	19 (16)	254 (131)
平成27	62 (22)	38 (22)	1 (1)	19 (14)	6 (4)	13 (5)	66 (28)	6 (4)	14 (13)	0 (0)	1 (1)	29 (23)	255 (137)
平成28	61 (26)	37 (24)	0 (0)	21 (16)	12 (6)	10 (4)	52 (11)	8 (6)	8 (7)	0 (0)	1 (1)	30 (26)	240 (127)
平成29	57 (29)	27 (19)	0 (0)	19 (10)	19 (13)	12 (9)	66 (30)	7 (4)	25 (25)	7 (6)	0 (0)	25 (22)	264 (167)
平成30	66 (35)	33 (25)	2 (2)	26 (17)	28 (15)	17 (11)	74 (32)	9 (8)	38 (37)	14 (13)	0 (0)	34 (27)	341 (222)

平成30年度（2018年度） 重点項目

11 学校・園施設の整備

学校・園施設は、安全で、快適に過ごせる施設の整備を計画的に進める必要があります。平成27年度（2015年度）に耐震化が完了したことから、引き続き施設の老朽化対策として、校舎大規模改造事業及び屋内運動場大規模改造事業を平成36年度（2024年度）まで、トイレ施設整備事業を平成32年度（2020年度）までの予定で実施し、施設の長寿命化や維持保全を図ります。平成30年度（2018年度）は、校舎大規模改造工事を小学校8校・中学校4校で、屋内運動場大規模改造工事を小学校3校・中学校2校で、トイレリニューアル工事を小学校5校・中学校5校で整備する予定としています。また、特別教室の空調設備も整備を行います。

重点項目につながる教育ビジョンの目標・方向・施策

基本目標３　豊かな教育環境の創造

基本方向７　安心・安全で豊かな学校・園の教育環境を整備します

施　　策34　学校・園施設の整備

重点項目を構成する事業の概要及び実績

【事業名】小・中学校校舎大規模改造事業		【担当課】資産経営室	
小・中学校校舎の大規模改造工事を実施します。 （平成30年度当初予算額は、平成31年度工事分の実施設計委託料を計上しています。）		【H30実績】 18校	達成状況 A
【指標】 工事実施校の校数	【考え方】 年次計画に基づき整備を実施する。	【R1目標値】 24校	
H29決算額　2,215,005　千円	H30当初予算額　142,912　千円	H30決算見込額　2,470,487　千円	

【事業名】小・中学校屋内運動場大規模改造事業		【担当課】資産経営室	
小・中学校屋内運動場の大規模改造工事を実施します。 （平成30年度当初予算額は、平成31年度工事分の実施設計委託料を計上しています。）		【H30実績】 15校	達成状況 A
【指標】 工事実施校の校数	【考え方】 年次計画に基づき整備を実施する。	【R1目標値】 20校	
H29決算額　996,285　千円	H30当初予算額　40,015　千円	H30決算見込額　835,019　千円	

【事業名】小・中学校トイレ施設整備事業		【担当課】資産経営室	
小・中学校のトイレリニューアル工事を実施します。 （平成30年度当初予算額は、平成31年度工事分の実施設計委託料を計上しています。）		【H30実績】 32校	達成状況 A
【指標】 工事実施校の校数	【考え方】 年次計画に基づき整備を実施する。	【R1目標値】 43校	
H29決算額　900,253　千円	H30当初予算額　56,420　千円	H30決算見込額　859,069　千円	

【事業名】特別教室空調設備設置事業		【担当課】保健給食室	
小・中学校校舎の特別教室の空調設備を整備します。		【H30実績】 2校	達成状況 A
【指標】 工事実施校の校数	【考え方】 年次計画に基づき整備を実施する。	【R1目標値】 2校	
H29決算額　千円	H30当初予算額　10,694　千円	H30決算見込額　7,056　千円	

取組の状況と評価

小・中学校の校舎大規模改造工事については、1期工事として小学校4校、中学校2校、2期工事として小学校4校、中学校1校、3期工事として中学校1校、屋内運動場大規模改造工事については、小学校3校、中学校2校、トイレリニューアル事業については、小学校5校、中学校5校の工事を実施し、施設の長寿命化や機能の維持・向上に取り組みました。

また、上記の取組を進めながら、地震・台風による災害復旧工事についても計画的に実施ししました。

さらに、小学校1校の音楽教室2室と中学校1校の音楽教室1室について、空調設備を設置しました。また、空調設備が未整備の特別教室等に関する今後の整備計画について、庁内検討を進めました。

今後の課題･方針

小・中学校の老朽化対策として、校舎大規模改造事業及び屋内運動場大規模改造事業を令和6年度まで、トイレ施設整備事業を令和2年度までの予定で計画的に進め、より安全で快適な教育環境の整備に引き続き取り組みます。令和元年度は、校舎大規模改造1期工事として小学校4校、中学校2校、2期工事として小学校4校、中学校2校、4期工事として中学校1校、屋内運動場大規模改造工事を小学校3校、中学校2校、トイレリニューアル工事を小学校8校、中学校3校実施する予定です。

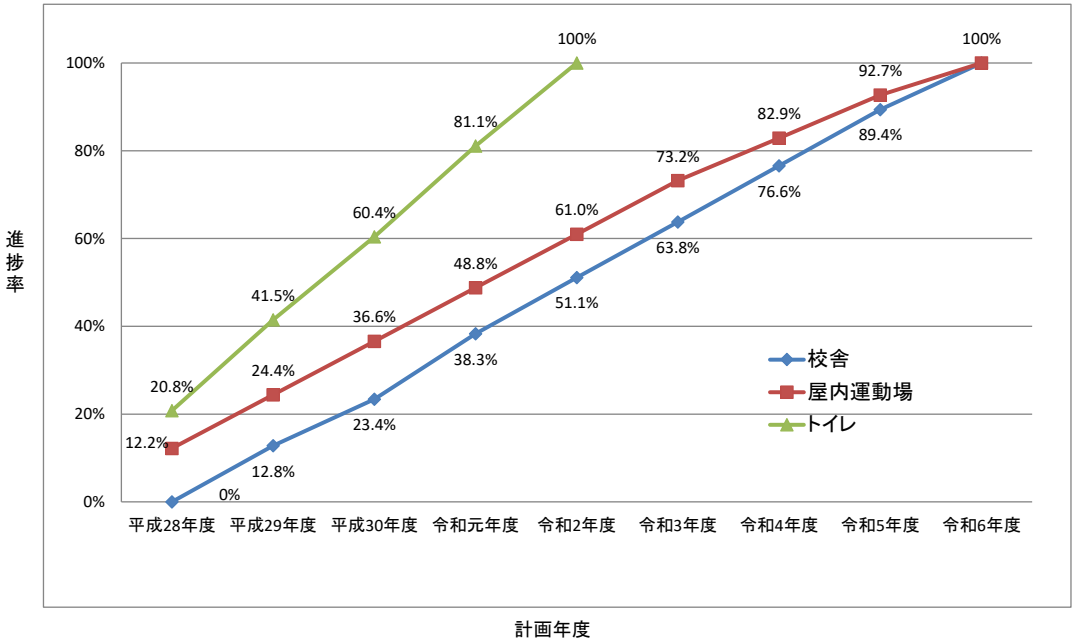
空調設備が未整備の特別教室等については、近年の災害とも言える気温上昇による児童・生徒の健康への影響が危惧され、学習環境も悪化していることから、できる限り早期に整備を完了する必要があります。整備期間の短縮や財政負担の軽減を図る手法について、他市の事例等を参考に関係部局と協議を重ねた結果、小・中学校54校に一括して空調設備を整備することを目指し、必要となる調査業務を令和元年度に実施する予定です。

大規模改造工事後の教室内装

大規模改造工事後の体育館

リニューアル工事後のトイレ

小・中学校校舎大規模改造工事、小・中学校屋内運動場大規模改造工事及び
小・中学校トイレリニューアル工事の進捗予定



年度ごとの実施校（実施予定校）数

単位：校

	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	合計
校舎大規模改造	0	6	5	7	6	6	6	6	5	47
屋内運動場大規模改造	5	5	5	5	5	5	4	4	3	41
トイレリニューアル	11	11	10	11	10	－	－	－	－	53

＊校舎大規模改造は1期・2期工事ともに完了した校数

＊令和元年度以降は実施予定校数

平成30年度（2018年度） 重点項目

12 安心・安全の確保

小学校、幼稚園及び幼稚園型認定こども園の校園門に警備員等の配置を行い、子供たちの学校園生活の安全を確保します。

小学校は、学校課業日に警備員を配置し、夏季・冬季・春季の休業期間中は（公社）吹田市シルバー人材センターによる受付員を配置、幼稚園及び幼稚園型認定こども園は、単独園1園に警備員を配置し、小学校に併設している14園に*（公社）吹田市シルバー人材センターによる受付員を配置します。

今後も人の目による抑止力が重要であるとの考えのもと、事業の継続を図ります。

重点項目につながる教育ビジョンの目標・方向・施策

基本目標３　豊かな教育環境の創造

基本方向７　安心・安全で豊かな学校・園の教育環境を整備します

施　　策35　安心・安全の確保

重点項目を構成する事業の概要及び実績

【事業名】小学校安全対策事業		【担当課】教育総務室	
小学校のより徹底した防犯体制の確立と子供たちの安全確保を目的に警備員等を配置し、校門付近を常時監視することで、来校者の受付とチェックを行い、不審者の侵入防止・抑制を図るとともに、緊急時の迅速な連絡体制のとれる安全対策業務を実施します。		【H30実績】 0件	達成状況 A
【指標】 学校内への不審者侵入件数	【考え方】 児童の学校内での安全を確保するため、引き続き警備員等を校門に配置する必要があります。	【R1目標値】 0件	
H29決算額　76,970　千円	H30当初予算額　84,129　千円	H30決算見込額　81,177　千円	

【事業名】幼稚園安全対策事業		【担当課】教育総務室	
幼稚園及び幼稚園型認定こども園のより徹底した防犯体制の確立と子供たちの安全確保を目的に警備員等を配置し、園門付近を常時監視することで、来園者の受付とチェックを行い、不審者の侵入防止・抑制を図るとともに、緊急時の迅速な連絡体制のとれる安全対策業務を実施します。		【H30実績】 0件	達成状況 A
【指標】 園内への不審者侵入件数	【考え方】 園児の園内での安全を確保するため、引き続き受付員等を園門に配置する必要があります。	【R1目標値】 0件	
H29決算額　13,053　千円	H30当初予算額　12,868　千円	H30決算見込額　12,277　千円	

取組の状況と評価

不審者の侵入防止には人の目による抑止力が極めて有効であるため、小学校の校門、幼稚園及び幼稚園型認定こども園の園門に警備員等を配置し、校園門付近を常時監視しました。その結果、不審者の侵入事案を生じさせず、子供たちの学校園生活での安全を確保することができました。

今後の課題・方針

子供たちの学校園生活での安全確保は最重要課題であり、その取組の一つとして警備員等の配置は極めて有効であるため、本事業については継続して実施し、引き続き小学校、幼稚園及び幼稚園型認定こども園の防犯体制の確立に努めます。

平成30年度（2018年度） 重点項目

13 学校・園運営体制の確立

児童の暴力行為の増加や特別な支援を必要とする児童数の増加など、複雑・困難化する小学校における学校現場に対し、人的支援を行うことにより、重大事案や緊急時の対応、及び多様化した課題を持つ児童に対するきめ細かな支援の充実を図り、落ち着いた学習環境の構築をめざします。

重点項目につながる教育ビジョンの目標・方向・施策

基本目標1　総合的人間力の形成

基本方向8　信頼と責任のある学校・園づくりを進めます

施　　策40　学校・園運営体制の確立

重点項目を構成する事業の概要及び実績

【事業名】小学校スタートアップ事業		【担当課】指導室	
幼稚園や保育所等から小学校への急激な学習・生活環境の変化の中でつまずきや戸惑いを見せたり、不適応行動をとり始めたりすることの多い小学校第1学年の児童に対して、「きめ細かな」指導を充実させ、スムーズな移行を図るとともに、虐待の兆候を早期に発見、対応することで問題解決につなげ、学習や生活をサポートするため、支援者の「*スターター」を配置します。		【H30実績】 86%	達成状況 A
【指標】 スターターの配置人数	【考え方】 小学校全校1名配置に加え、学校規模に応じて追加配置する。	【R1目標値】 4学級以下は1名 5学級以上は2名	
H29決算額　26,885　千円	H30当初予算額　26,707　千円	H30決算見込額　26,457　千円	

【事業名】小規模校支援事業		【担当課】指導室	
教員数が学級数に応じて配置が少ない小規模の小学校や、単一学級となる学年がある小学校は、多様化した教育課題への対応や緊急対応が難しく、教員（臨時雇用員）を1名配置することで学校力の低下が生じないよう支援します。		【H30実績】 100%	達成状況 A
【指標】 12学級以下の全小学校への1名の教員加配の割合	【考え方】 12学級以下の小学校、単一学級となる学年がある小学校に教員を加配する。	【R1目標値】 100%	
H29決算額　8,835　千円	H30当初予算額　4,634　千円	H30決算見込額　2,899　千円	

取組の状況と評価

幼稚園や保育所等から小学校への急激な環境の変化の中で、学習面・生活面でつまずきを見せたり、不適応行動をとり始めたりすることが多い小学校第1学年に対して、全ての小学校に1名の「スターター」を配置することで、個に応じたきめ細かな対応を図ることができ、小学校生活への移行がスムーズに行われました。

また、小規模な小学校1校に対して市費の教員1名を加配置し、生徒指導体制の充実を図りました。当該校では、小・中学校の生徒指導担当者が相互に会議へ参加し、情報共有を行いました。

今後の課題・方針

1学年が5学級以上の大規模校においては、1名の「スターター」では十分な支援が行えないため、配置の拡充を検討する必要があります。

また、小規模校支援事業の加配教員の配置については、より有効な活用が可能となるよう検討します。

平成30年度（2018年度） 重点項目

14 教育資料の提供と教職員研修の充実

小学校では平成32年度（2020年度）、中学校では平成33年度（2021年度）に全面実施される新学習指導要領では、「主体的・対話的で深い学び」や「カリキュラムマネジメント」、「ICT機器の活用」、「道徳教育」などが盛り込まれており、学校において、これまでの取り組みを振り返り、どのように新しい教育課題に取り組むかが問われています。そのため、新学習指導要領改訂を見据えて、最新の教育情報や教育実践資料等を収集するとともに、教育の今日的課題や吹田市の重点施策について調査・研究を推進し、成果等を発信することで学校での教育実践に生かします。

また、教職員研修については、さまざまな教育課題や教職員の*キャリアステージ、ニーズに対応したもの、特に若手やミドルリーダー育成を中心に、授業力や学校マネジメント力向上をねらいとして、内容を一層充実させ、教職員の専門的知識・技能の習得、資質向上を図り、円滑な学校経営の推進を図ります。

重点項目につながる教育ビジョンの目標・方向・施策

基本目標３　豊かな教育環境の創造

基本方向８　信頼と責任のある学校・園づくりを進めます

施　　策41　教育資料の提供と教職員研修の充実

重点項目を構成する事業の概要及び実績

【事業名】教職員研修事業		【担当課】教育センター	
新学習指導要領を見据えて、「道徳教育」や「主体的・対話的で深い学び」などの新しい教育課題や教職員のキャリアステージ、ニーズに対応したもの、特に若手やﾐﾄﾞﾙﾘｰﾀﾞｰ育成を中心に、授業力や学校マネジメント力向上をねらいとして、内容を一層充実させ、教職員の専門的知識・技能の習得、資質向上を図り、円滑な学校経営の推進を図ります。		【H30実績】 5,259人	達成状況
【指標】 教職員研修延べ参加者数	【考え方】 教職員の自己研鑽意欲を高め、研修参加を促していく必要がある。	【R1目標値】 6,000人	A
H29決算額 4,051 千円	H30当初予算額 6,318 千円	H30決算見込額 6,285 千円	

【事業名】校内研修事業		【担当課】教育センター	
新学習指導要領を見据えて、「道徳教育」や「主体的・対話的で深い学び」など新しい教育課題に対応するため、学校に講師を招いて研修を行うとともに、様々な専門の講習会・研修会に参加することで、教職員の自己教育力の高揚と指導力及び資質の向上を図っています。		【H30実績】 1,604人	達成状況
【指標】 校内研修会参加人数	【考え方】 校内研修会を活性化し、特色を生かした学校づくりを支援していく必要がある。	【R1目標値】 1,590人	A
H29決算額 1,259 千円	H30当初予算額 1,342 千円	H30決算見込額 1,142 千円	

【事業名】研究学校事業		【担当課】教育センター	
新学習指導要領で示されている新しい教育課題や吹田市の重点項目にかかわる研究を学校に委嘱し、教員の資質や学校研究体制のあり方を改善するとともに、児童・生徒の学力向上を図っています。さらに、研究授業、協議を公開するとともに研究成果を校外に発信し市全体の教育力を高めています。		【H30実績】 28回	達成状況
【指標】 委嘱研究校の公開授業回数	【考え方】 委嘱研究校における研究成果を発信し、全校が共有していく必要がある。	【R1目標値】 15回	A
H29決算額 500 千円	H30当初予算額 648 千円	H30決算見込額 648 千円	

【事業名】教育課題調査・研究推進事業		【担当課】教育センター	
教職員に研究員を委嘱し、教育に関する専門的、今日的課題等の調査・研究活動を行っています。また、調査・研究の成果を積極的に発信することで、各学校・園における教育実践力の向上と教育活動の充実・活性化を図っています。		【H30実績】 79回	達成状況
【指標】 研究グループ活動回数	【考え方】 教育課題への調査・研究を行うため、教職員に対する活動を活性化し、支援していく必要がある。	【R1目標値】 66回	A
H29決算額 2,382 千円	H30当初予算額 2,245 千円	H30決算見込額 2,245 千円	

【事業名】教育研究大会事業			【担当課】教育センター	
全ての教職員が、今日的課題や本市の重点施策について学び、今後の教育活動に活かすための相互理解の場としています。			【H30実績】 91%	達成状況
【指標】 大会実施の後アンケート結果から、教育課題に対する学びが深まり、今後の職務にその学びを活かせる教職員の割合	【考え方】 参加者にとって教育課題に対する学びが深まり、今後の職務にその学びを活かせる研究大会を実施する必要がある。		【R1目標値】 100%	A
H29決算額　188　千円	H30当初予算額　256　千円	H30決算見込額　201　千円		

取組の状況と評価

研究紀要や各教科の授業指導案等の教育資料をホームページやSATSUKIネット（吹田市学校教育情報通信ネットワーク）「知恵の泉」に掲載することで全小･中学校に発信し、教員の授業力向上を支援しました。また、学校、園、教育センターの調査研究グループ等の研究成果の発信を行う「教育研究報告会」には19団体が発表し、264人の教職員が参加しました。

教職員研修は、教職員のキャリアステージや職務の専門性に応じた211講座を実施しました。小中一貫教育、英語（外国語）教育、授業力向上、特別支援教育等の今日的課題に対応するとともに、人権教育等の普遍的課題に対応した研修を実施しました。経験年数の少ない教職員に対しては、ミドルリーダーに求められる資質・能力の育成を目指し、授業・学級づくりをはじめ、学校運営をテーマとした内容を設定しました。教職員研修の延べ受講者数が平成29年度より減少しているのは、管理職研修の必修研修の構成を整理（2研修講座減）したことに加え、一部研修講座が自然災害で実施することができなかったことによります。

教職員研修に参加した教職員を対象に実施した研修アンケートから、研修内容について、「とても良い」、「良い」という肯定的回答が97.3%を占めました。教育研究大会のアンケートも同様で、全体的に肯定的な回答が多数を占めました。

今後の課題･方針

「主体的・対話的で深い学び」や「ICT機器の活用」、「道徳教育」などが盛り込まれている新学習指導要領を踏まえ、最新の教育実践資料等を収集するとともに、教育の今日的課題や本市の重点施策について調査・研究を推進し、成果等を発信することで学校における教育実践を支援します。

教職員研修については、教職員のニーズ、国や府の動向に注視しながら、初任者教員と学校組織の中核を担うミドルリーダーの育成を中心に、キャリアステージに応じた教職員研修等のさらなる充実を図り、学校組織しての教育力の向上と子供、保護者、地域から信頼される学校づくりの推進を目指します。

教育研究大会については、今後も本市の今日的な教育課題に応じた講師を招聘し、教職員の資質向上に努めていきます。

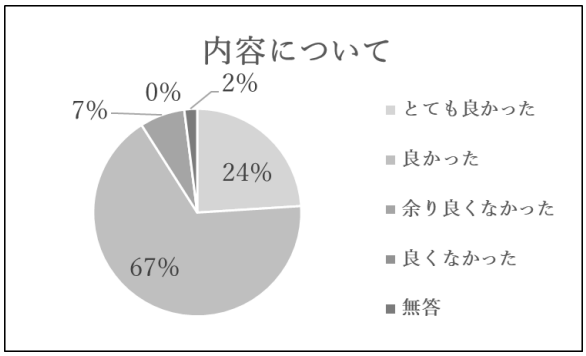
〔研究大会について〕

1. 教育研究大会参加者 ３８４名　　内訳

	幼稚園	小学校	中学校	合　計
人　数	２３名	２４７名	１１４名	３８４名

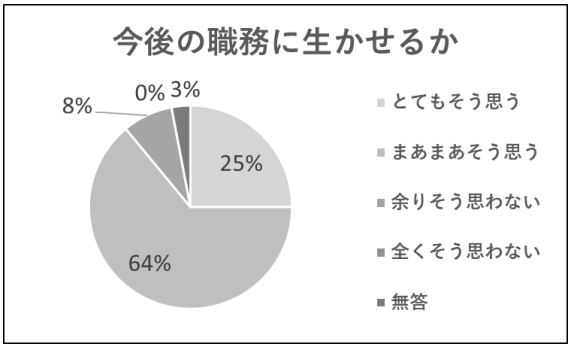
2. アンケートについて

■ 回収数　２９３通（回収率 76.3%）

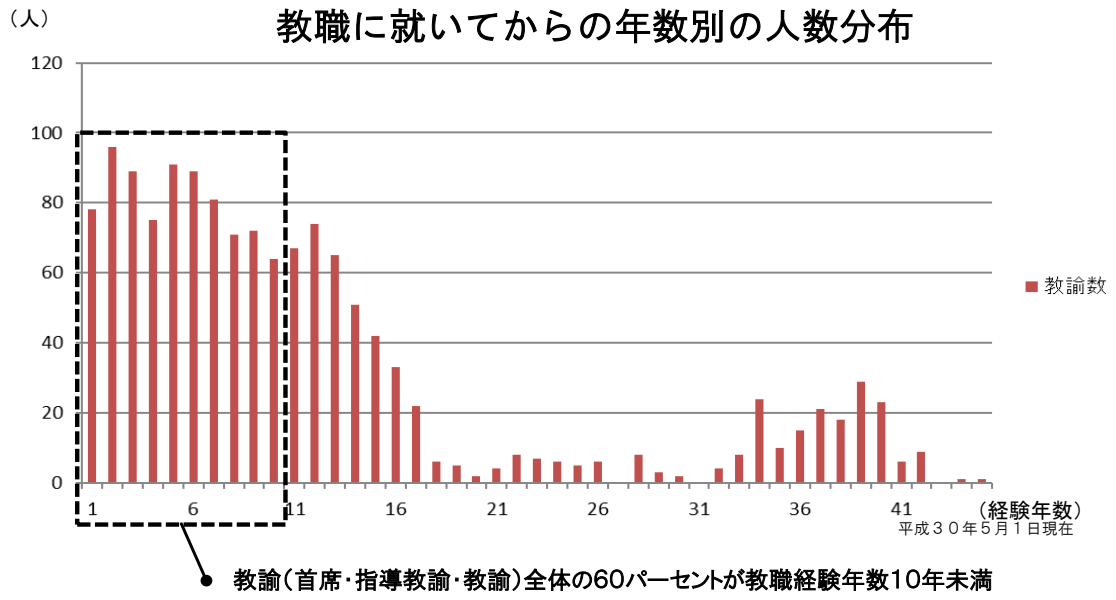


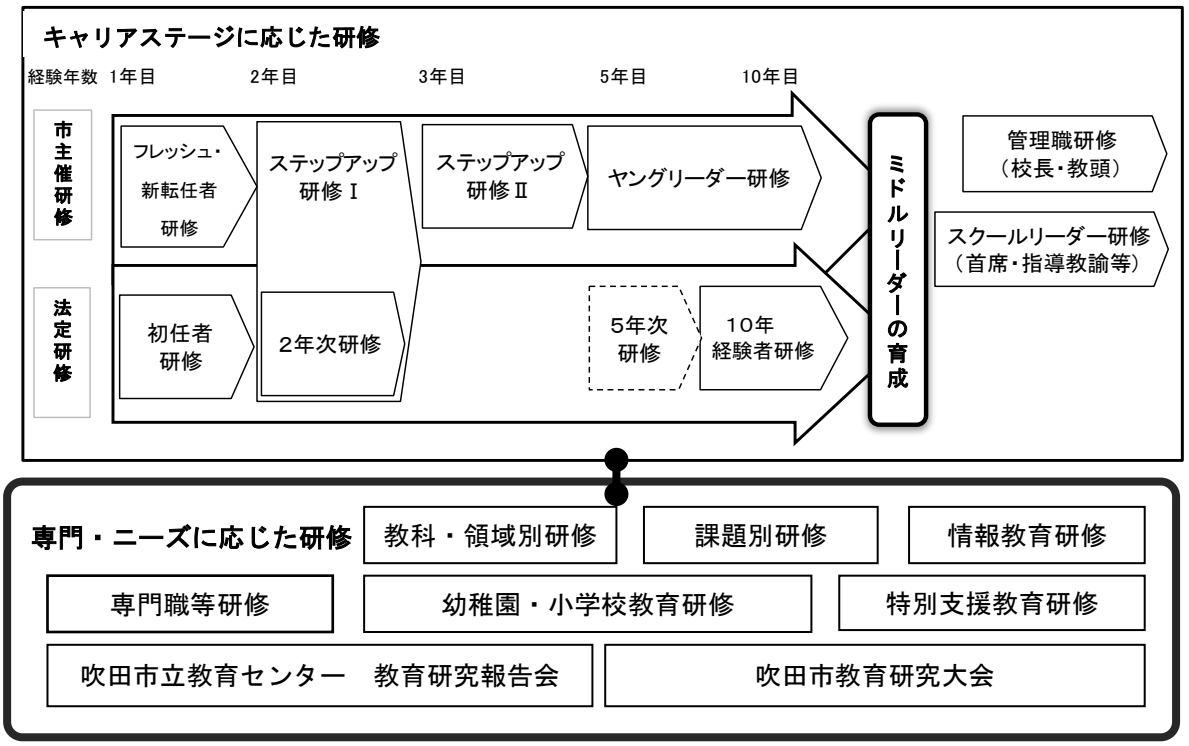
項　　目	人数
とても良かった	６９名
良かった	１９７名
余り良くなかった	２１名
良くなかった	０名
無答	６名

■ 設問「教育研究大会の内容について」



項　　目	人数
とてもそう思う	７３名
まあまあそう思う	１８７名
余りそう思わない	２４名
全くそう思わない	１名
無答	８名





本市では、ベテランといわれる教職員層の定年退職による激減と、新規採用による経験年数の少ない教職員の増加という世代が大きく交代する中、次期リーダー層の早期育成が課題となっています。教育センターでは、法定研修に加え、経験年数の少ない教職員の育成に重点を置く等、キャリアステージに応じた研修を実施しています。
加えて、教職員の専門性や本市の教育課題に応じた研修を実施することで、各校における教育力の向上を支援し、子供たちの「総合的人間力」を育む教育を推進しています。

平成30年度（2018年度） 重点項目

15 生涯学習施設の整備・充実

老朽化した施設の整備や更新を行うことにより生涯学習施設等の充実を図り、充実した施設を維持しながら住民の生涯学習を支援します。

公民館では、山手地区公民館新築工事の完成を目指すとともに、狭隘で老朽化した公民館の大規模改修工事等を実施します。図書館では、岸部地区の図書館として（仮称）健都ライブラリーの整備を進めます。また、中央図書館の耐震診断の結果を受け、より良い施設の維持補修を計画します。北千里地区公民館と図書館の整備については、各部署と協議を進めます。開所して40年を迎える少年自然の家については、これまでの小中学校の利用に加えて、幅広い市民の方々に気軽に利用していただけるよう新たな市民サービスの提供やより効率的・効果的な施設運営を検討してまいります。

また、生涯学習施設の機能を充実させ、各施設の持つ機能や立地条件などを活かした教育施設の体系化を図ります。

重点項目につながる教育ビジョンの目標・方向・施策

基本目標3　豊かな教育環境の創造
　基本方向9　生涯学習・生涯スポーツ環境の整備を進めます
　　施　　策43　生涯学習施設の整備・充実

重点項目を構成する事業の概要及び実績

【事業名】地区公民館の改修		【担当課】まなびの支援課	
地区公民館の老朽化に伴い、年次的に大規模改修工事等を実施します。		【H30実績】 3件	達成状況
【指標】 改修件数	【考え方】 公民館の大規模改修は年1館を目標としているが、吹田市公共施設最適化計画に基づき実施する。	【R1目標値】 1件	A
H29決算額　121,915　千円	H30当初予算額　435,106　千円	H30決算見込額　373,891　千円	

【事業名】（仮称）健都ライブラリー整備事業		【担当課】中央図書館	
北大阪健康医療都市(健都)内に、市民自ら積極的かつ継続的な健康づくりができる学びや気づきの拠点として整備するものです。多世代が身近に利用できる図書館を多機能化し、健康増進広場に必要な機能を持たせた施設になります。市内の図書館利用不便地域が解消します。		【H30実績】 実施設計完了	達成状況
【指標】 令和2年度中の供用開始を目指す。	【考え方】 平成30年度　実施設計 平成30年度～令和2年度　建設工事	【R1目標値】 建設工事をすすめる	A
H29決算額　36,473　千円	H30当初予算額　40,838　千円	H30決算見込額　40,755　千円	

【事業名】北千里地区公民館・千里図書館北千里分室再整備検討事業		【担当課】まなびの支援課・中央図書館	
関係部局と協力し複合施設整備事業を進めます。		【H30実績】 設計等業務委託契約締結	達成状況
【指標】 令和4年度中の供用開始を目指す。	【考え方】 令和2年度　実施設計 令和3年度～令和4年度　建設工事	【R1目標値】 令和元年度基本設計完了	A
H29決算額　－　千円	H30当初予算額　0　千円	H30決算見込額　42　千円	

【事業名】少年自然の家施設管理事業		【担当課】少年自然の家	
施設が開所してから約40年を迎え、小・中学校や青少年団体等をはじめ、幼児から高齢者まで、幅広く市民の方々に気軽に利用していただけるよう家族や少人数グループの利用に配慮した宿泊室の個室化の工事などを行い、生涯学習施設としての新たな市民サービスの提供やより効率的・効果的な運営体制を検討してまいります。		【H30実績】 浴室設備修繕工事	達成状況
【指標】 幼児から高齢者まで、幅広い市民の方々の利用に対しての利便性を図る。	【考え方】 令和元年度　実施設計（空調設備及びトイレ洋式化） 令和2年度　空調設備工事及びトイレ洋式化工事	【R1目標値】 令和元年度左記実施設計完了	A
H29決算額　64,102　千円	H30当初予算額　56,465　千円	H30決算見込額　52,356　千円	

取組の状況と評価

地区公民館改修事業では、江坂大池地区公民館の大規模改修工事を完成し、吹田南地区公民館と山手地区公民館の移転建替工事を進め完成しました。

健都ライブラリー整備事業では、実施設計を完了し、建設工事について入札を実施しました。

少年自然の家では、ホームページ等により施設の魅力を発信するとともに、利用要件の緩和、使用申込み期間の拡充、休日の臨時開所等の柔軟な取組を行い、利用者の利便性の向上を図りました。また、豊かな自然環境を生かし、四季ごとの「自然観察会」や「自然観察指導」など環境学習の取組を行いました。さらに、浴室のシャワー等の取り替え、情報化に対応するため公衆無線LAN（Wi-Fi）の整備を行いました。

今後の課題・方針

健都ライブラリーの建設工事を平成31年4月から開始し、令和2年11月の供用開始を目指します。

北千里小学校跡地複合施設建設については、市民の意見を十分に聴きながら、基本計画を策定します。

少年自然の家については、従来より実施している環境学習等の取組は継続し、小・中学生の自然体験学習の場としての機能を残しつつ、幅広い市民が気軽に利用できるよう新たな市民サービスの提供や、より効果的かつ効率的な施設運営に向けて、指定管理者による施設運営への移行準備を行います。また、平成30年度実施予定の宿泊室の個室化工事については、大阪府北部地震の影響により実施時期を先送り、令和元年度に実施する予定です。

第 2　教育委員会の活動状況

1　教育委員会の役割

教育委員会は常勤の教育長と様々な分野で識見を有する 5 人の非常勤委員とで構成されています。

教育委員会の役割は、教育委員会規則の制定・改廃、教育機関の設置・廃止、職員の人事、活動の点検・評価、予算等に関する意見の申し出など、教育行政全般について自らが管理執行するところにあります。とりわけ、国際化、情報化、科学技術の進展等の社会の変化に伴い、教育のあり方が問われている中で、本市教育の基本的な方向について、教育委員会会議の場で合議し、最終的に決めるという非常に大切な役割を担っています。

2　教育長及び教育委員選任状況

教育長及び教育委員は、市長が議会の同意を得て任命します。教育長の任期は 3 年、教育委員の任期は 4 年です。また、教育長及び教育委員は、再任することができます。

平成 31 年 3 月 31 日現在の構成

氏　名	任　期
教育長 原田　勝（はらだ　まさる）	平成 29 年 12 月 24 日～ 令和 2 年 12 月 23 日
教育長職務代理者 谷口　学（たにぐち　まなぶ）	平成 26 年 3 月 30 日 ～ 平成 30 年 3 月 29 日 平成 30 年 3 月 30 日 ～ 令和 4 年 3 月 29 日
委員 大谷　佐知子（おおたに　さちこ）	平成 23 年 8 月 12 日 ～ 平成 27 年 8 月 11 日 平成 27 年 8 月 12 日 ～ 令和元年 8 月 11 日
委員 和泉　慎次（いずみ　しんじ）	平成 28 年 12 月 25 日～ 令和 2 年 12 月 24 日
委員 安達　友基子（あだち　ゆきこ）	平成 28 年 12 月 25 日～ 令和 2 年 12 月 24 日
委員 福田　知弘（ふくだ　ともひろ）	平成 29 年 3 月 29 日 ～ 令和 3 年 3 月 28 日

3　平成 30 年度の教育長及び教育委員の活動状況

(1) 教育委員会会議

定例会を 12 回、臨時会を 1 回開催し、教育委員会事務局の職員人事や教育委員会の附属機関等の委員の委嘱・解嘱等の審議のほか、全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、今後の本市の教育内容にどう活かしていくのかなど活発に議論しました。

	開催回数		付議案件数	
平成 30 年度	定例会	12	議　案	63
	臨時会	1	報　告	25
	計	13	その他	15
			計	103

(2)総合教育会議

市長と教育委員会が、本市の教育の課題や方向性を共有して、連携を深めながら教育行政の推進を図るため、協議・調整を行っています。平成 30 年度は 1 回開催されました。

－主な項目－

・学校教育施設の環境改善について

(3)教育長又は教育委員が出席した会議・行事視察等

ア　市議会関係

市議会本会議、文教市民常任委員会、予算常任委員会、決算常任委員会

イ　市主催事業の視察及び出席

吹田市消防音楽隊発足 30 周年記念演奏会・自治体消防制度発足 70 周年記念式典、憲法と市民のつどい、地域防災総合訓練、みんなの健康展、吹田市美術展覧会表彰式、文化功労者表彰式典、人権フェスティバル、吹田市成人祭、吹田市一斉合同防災訓練、総合計画シンポジウム、市政懇親会

ウ　学校園関係視察

市立小・中学校、幼稚園訪問　45 校園、幼保連携型認定こども園訪問、小中学校周年行事への出席　3 回、学校被災状況視察、幼稚園保育状況視察、吹田市教育研究大会、吹田市立教育センター教育研究報告会、スクールプロジェクト支援事業視察、すいたえいごkids視察、吹田市中学校総合体育大会視察、中学校連合体育大会視察、小学校陸上大会視察、米沢富美子こども科学賞審査会及び表彰式、吹田市中学校「中学生の主張」大会、学校保健研究大会、運動会視察、体育大会視察、部活動視察、吹田市中学校演劇ダンス発表

エ　研修会等への参加・講演

大阪府都市教育長協議会夏季研修会、次世代教育研究会、大阪府都市教育長協議会秋季研修会、夢と希望を広げる出会い事業での講演、大阪府都市教育委員会研修会、三島地区教育委員会協議会研修会

オ　その他

各種行事への出席　59 回、災害対策本部会議

第３　学識経験者からの知見

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条に基づき、本市教育委員会の事務の管理及び執行状況の点検・評価報告書を作成するにあたり、学識経験者による質疑応答形式のヒアリングを実施し意見聴取を行いました。

１　各重点項目について

（１）学校教育について

「４　確かな学力の育成」について。自分で計画を立てて勉強していると答えた児童・生徒の割合が、平成 30 年度実績で小学校 62%、中学校 49%という低さは深刻な事態として受け止めなければならない。吹田市が基本目標に掲げている総合的人間力の育成には教科の学力だけでなく思考力や応用力、学習に向かう姿勢を育成することが重要である。

「５　今日的課題に対応した教育の推進」について。英語教育でいち早く特例校申請をしている点については評価している。単に英語という言語を習得することを目標にするのではなく、英語というツールの習得を通じて、子供たちが異なる文化や人を理解する取組を進めてほしい。ＩＣＴ機器を活用したわかりやすい授業はすべての小学校での実施を目指してほしい。読書活動の推進については、公立図書館の司書の力をもっと活用してはどうか。今日的課題は、読書、英語、ＩＣＴだけではない。その他の今日的課題についても記載し、教育委員会としての問題意識を発信していく必要がある。

「６　生徒指導の充実」について。スクールソーシャルワーカーやスクールロイヤーの配置など子供をサポートする人的な体制は府内でも手厚い方であると評価している。しかしながら、現在、報道されているいじめ重大事態について、組織はあっても機能していない実態があったと思われる。原因究明と課題整理を行い、来年度の点検・評価において、学校、教育委員会に何が足りなかったのかを示してほしい。児童虐待については虐待対応事案数等を公表することを検討してほしい。公表しないことで、吹田市には虐待がないというミスリードがあってはならない。積極的な開示が結果的に市民による見守りにもつながる。

「７　特別支援教育の充実」について。特別支援教育に関する環境整備は評価する。巡回相談のニーズの高さなど、教育委員会としての問題意識を個別計画に盛り込んではどうか。

「１３　学校・園運営体制の確立」について。幼稚園・保育所等と小学校はシステムが全く違うため、すべての子供にとまどいがある。小学校スタートアップ事業は幼稚園・保育所等と小学校を円滑に接続するための効果的な事業であると評価している。

「１４　教育資料の提供と教職員研修の充実」について。重点項目の名称「教育資料

の提供と教職員研修の充実」は適切ではない。新しい時代の教員をどう育てていくかが先にあり、そのための資料の提供が本来の流れである。名称は「教員の育成」等であるべきではないか。この名称については現行教育ビジョンの施策名称となっているので変更できないことは理解しているので、次期教育ビジョンでは変更を検討してほしい。教員には子供をとりまく様々な問題に対応していく「子供対応力」が求められる。厳しい状況にある子供を大事にする教員を育成する視点を明記してほしい。

（２）青少年の健全育成及び生涯学習について

「１０　青少年相談の充実」について。青少年やその家族が孤立することのないよう訪問相談（アウトリーチ）を実施されている点は評価している。学校教育の間は様々な機関の連携により支援が届きやすいが、卒業や中退で学校教育が終わった後も問題を抱えている青少年が孤立することのないような取組が必要である。

学識経験者

甲子園大学非常勤講師、元大阪教育大学教授	島　善信　様
シップヘルスケアホールディングス株式会社代表取締役会長 CEO	古川　國久　様
吹一・吹六地区青少年対策委員会委員長	村田　芳昭　様

参　考　資　料

用語解説

吹田市教育大綱

当初予算における教育関係予算

教育委員会事務局組織図

＜ア行＞

【ＩＣＴ支援員】(P.13)
業務を委託された事業者から支援員が、年間 24 回（月 2 回相当）以上、各小・中学校を訪問し、情報教育機器等を活用した授業づくりや校務事務をサポートします。

【英語指導助手】(P.12)
児童・生徒の英語発音や国際理解教育の向上のために配置する英語を母国語とする外国人講師。小・中学校において英語担当教員の助手として活動しています。本市では「AET（アシスタント イングリッシュ ティーチャー)」と呼び、英語教育指導又は、それに準ずる経験をしており、教育に携わるのに適した指導技術をもっている等、要件を満たすことを条件としています。

＜カ行＞

【基礎的環境整備】(P.19)
合理的配慮の充実を図るため、必要な財源を確保し、インクルーシブ教育システム（障がいのある者と障害のない者が、ともに学ぶ仕組み）の構築に向けた取組として、教育環境の整備を行うこと。

【北大阪ミュージアム・ネットワーク】(P.23)
北大阪を中心とする８市３町（能勢町・豊能町・川西市・池田市・箕面市・豊中市・吹田市・摂津市・茨木市・高槻市・島本町）に所在する博物館・美術館・資料館など、民間及び公共を問わず、ミュージアムと総称することができる施設が集い連携を図りながら、地域文化資源の整備、活用に積極的に取り組み、博物館活動の充実と地域文化等の発展に寄与している。

【キャリアステージ】(P.33)
教職員一人ひとりの経験の過程や職務のこと。

【教育課程特例校】(P.12)
学校又は地域の特色を生かし、学習指導要領等によらない特別の教育課程を編成し教育を実施することができる学校。文部科学省が特別の教育課程編成・実施計画を審査し、指定を決定します。

【(公社) シルバー人材センター】(P.31)
経験や技能を生きがいや健康増進に役立てたいと考えている定年退職したり、家業を離れたりした 60 歳以上の方を対象に、臨時的、短期的な仕事を提供する公益社団法人。

【合理的配慮】(P.19)
障がいのある子供が、他の子供と平等に「教育を受ける権利」を確保するために、必要な変更・調整を行うことであり、状況に応じて、学校教育を受ける場合に個別に必要とされるもの。

【国際理解教育】(P.12)
世界の人々が国を越えて理解し合い、互いに人間として尊厳と信頼をもって協力することを理念とした教育。

【子ども・若者支援地域協議会】(P.26)
社会生活を円滑に営む上での困難を有する子供・若者に対する支援が効果的かつ円滑に実施されるよう、関係機関等で構成されています。子ども・若者育成支援推進法（平成 21 年法律第 71 号）により、地方公共団体に対し、同協議会を設置する努力義務が課され、本市では平成 29 年 3 月に設置しました。

【個別の教育支援計画】(P.19)
障がいのある児童生徒等の一人ひとりのニーズを正確に把握し、教育のみならず、医療、福祉、労働等の関係機関との密接な連携協力のもと、長期的な視点で乳幼児期から学校卒業後までを通じ、一貫して的確な支援を行うことを目的として作成される計画のこと。

【個別の指導計画】(P.19)
個別の教育支援計画を踏まえ、学校における一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導目標、内容、方法などを具体的にまとめた計画のこと。

＜サ行＞
【生涯学習推進計画】(P.21)
市民が「いつでも、どこでも、だれでも」自主的に生涯学習に取り組むために、生涯学習の都市づくりをめざして施策の方向を明らかにした計画。平成 28 年度からは新たに策定した第 3 次吹田市生涯学習（楽習）推進計画に基づき事業を推進しています。

【小中一貫教育カリキュラム】(P.7)
各中学校ブロックで「めざす子ども像」を共有し、特色ある小中一貫教育を進めるため、小学校と中学校が教育の独自性と連続性を踏まえ編成した、9 年間の教育課程のカリキュラム。

【小中一貫教育実施プランⅡ】(P.7)
小中一貫教育を推進するため平成 16 年度に策定した「吹田市小中一貫教育実施プラン」に続き、平成 26 年度からの 5 年間に教育委員会と学校が取り組む項目を示した計画。4 つの重点項目として、①授業改善に向けた小中合同研修、②コミュニケーション力の育成、③中学校での小学校 6 年生の教育活動の推進、④保護者、地域への積極的な発信を掲げています。

【すいたえいご kids】(P.12)
小学校 4 年生を対象に、英語だけに触れる世界を楽しみながら、児童が英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする意欲の向上を目標とした体験活動。

【すいたえいご week】(P.13)
市立小学生 6 年生の全児童を対象に、市内の英語体験学習施設で、英語体験学習を行う。児童に小学校外国語活動の中で学んだことが活用できたと実感を持たせ、またこの体験活動を通じて、児童自身が学習到達目標を達成できたかどうか自己評価できます。

【スクールソーシャルワーカー】(P.15)
いじめや不登校、暴力行為、児童虐待など、様々な課題に対応するため、教育分野に関する知識に加え、社会福祉等の専門的知識・技術を用いて、子供たちが置かれた環境に働きかけ、支援を行う者。本市では、現在、各中学校ブロックに 1 人を配置し、子ども家庭センターや保健センターなど関係機関と連携しながら課題の早期解決に努めています。略称はＳＳＷ。社会福祉または精神保健福祉士の資格を有する者を採用しています。

【スターター】(P.32)
新 1 年生に対して授業中での個別の学習支援や学校生活における仲間づくり等の支援を行う支援者の呼称。小・中学校、高等学校または幼稚園の教諭免許及び保育士の資格を有する者を採用しています。

【千里みらい夢学園】(P.7)
竹見台中学校・桃山台小学校・千里たけみ小学校の 3 校で構成する本市初の施設分離型小中一貫教育校。平成 23 年 4 月開園。

【全国学力・学習状況調査】(P. 11)
　文部科学省が平成 19 年度から実施している、全国的な学力・学習状況の調査。対象は、小学校 6 年生、中学校 3 年生。義務教育の機会均等と水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ることを目的にしています。

【総合的人間力】(P. 1)
　確かな学力、豊かな心、たくましい体（知・徳・体）のバランスの取れた力。生きる力。

＜タ行＞
【太陽の広場】(P. 24)
　こどもプラザ事業の取組のひとつ。文部科学省の「放課後子ども教室推進事業」として、異学年の児童が一緒になって遊び、子供の自主性、創造性などを育むため、小学校の施設や地域における学習資源などを活用して、子供たちが安心して安全に過ごせる居場所を提供しています。

【地域教育協議会】(P. 22)
　学校・家庭・地域間の連絡調整をはじめ、地域教育活動の活性化と学校教育活動への支援・協力を目的に、中学校区ごとに組織化された、子供のための協議会。幼稚園・保育園、小・中学校、ＰＴＡ、青少年育成団体、自治会、公民館、地域の有志などで構成されており、講演会や継続的な体験活動、子供たちの教育に関わる大人のネットワークづくりなどを行っています。

【地方教育行政の組織及び運営に関する法律】(P. 1)
　地方公共団体における教育行政に必要な組織とその運営の基本を定めた法律。
　（抜粋）（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）
　　第二十六条　教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。
　　２　教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たつては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

【中学校ブロック】(P. 5)
　同一中学校区内に所在する公立の幼稚園、小学校、中学校で構成する教育的な活動の単位。公立保育所も連携して取組を実施している中学校ブロックもあります。

【読書活動支援者】(P. 12)
　小・中学校で、読み聞かせ活動やブックトークなどの直接の授業支援や、調べ学習の資料収集などの授業準備への支援、さらに図書の整理、修理、廃棄や掲示物の作成などの学校図書館の環境整備などに従事する本市独自の支援者。司書または司書教諭の免許を有する者を採用しています。

＜ナ行＞

【認定こども園】(P. 6)

教育・保育を一体的に行う施設で、いわば幼稚園と保育所の両方の良さを併せ持っている施設です。保護者が働いている、いないにかかわらず受け入れて、就学前の子供に幼児教育・保育を提供する機能と地域における子育て支援を行う機能を備えています。それらの機能を備え、設置基準を満たす施設は、都道府県等から認定を受けることができます。認定こども園には、地域の実情や保護者のニーズに応じて選択が可能となるよう幼保連携型、幼稚園型、保育所型、地方裁量型等のタイプがあります。吹田市の公立では、幼稚園型 8 園、幼保連携型 1 園があります。

＜ハ行＞

【発達相談員】(P. 19)

言語聴覚士や作業療法士（または特別支援教育士）の資格を有する相談員（市非常勤職員）のことです。特別な支援が必要と思われる子供に対して、各学校・園が早期に適切な支援ができるよう、授業参観を通じた教職員への助言等を巡回相談時に行うことで学校・園を支援します。また、教職員や保護者を対象とした特別支援教育に係る研修の企画・運営及び講師等を担います。

【ひきこもり】(P. 26)

様々な要因の結果として社会的参加（就学、就労、家庭外での交遊など）を回避し、原則的には 6 か月以上にわたって概ね家庭にとどまり続けている状態。

【放課後子ども総合プラン】(P. 24)

厚生労働省と文部科学省が共同して策定した計画。共働き家庭等の「小 1 の壁」を打破するとともに、次代を担う人材を育成するため、全ての就学児童が放課後等を安全・安心に過ごし、多様な体験・活動を行うことができるよう、一体型を中心とした放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の計画的な整備等を進めることを目的にしています。

両事業の継続的な整備が必要な状況であるため、連携を前提とした見直しが行われ、平成 30 年 9 月に「新・放課後こども総合プラン」が策定されました。

＜マ行＞

【めざす子ども像】(P. 7)

小中連携の柱として、すべての中学校ブロックにおいて実態に応じて設定・共有する、「子供に身につけさせたい力」などの目標。

＜ラ行＞

【臨時雇用員】(P. 14)

アルバイトの職員。

吹田市教育大綱

平成２７年４月に改正された「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第１条の３に基づき、吹田市及び吹田市教育委員会が互いに連携して教育行政を推進するために、以下の教育に関する理念と基本目標を「吹田市教育大綱」として策定します。

１　理念

今　吹田から　未来（あす）の力を

～生命（いのち）かがやき　ともにつながり　未来（あす）を拓（ひら）く吹田の教育～

すべての人々が生命をかがやかせて、人や社会とつながりながら、今を確かに生き抜き、近い将来を含めて、未来を拓く吹田の教育を進めます。

２　基本目標

本市の教育を推進するために、以下の３つの基本目標を定めます。

基本目標１　総合的人間力の形成　～学びを高め、健やかな心と体を育む教育～

小中一貫教育を基本として、子どもたちの確かな学力、豊かな心と健やかな体（総合的人間力）を育むとともに、すべての人々が生涯にわたって学び、楽しみ、個性や能力を発揮しながら自己実現を図る社会をめざします。

基本目標２　社会全体の教育力の向上　～支え合い、地域とともに歩む教育～

家庭、学校、地域、関係機関など多様な主体が、互いに連携・協力して、教育課題を共有しながらその解決を図り、地域に根ざした質の高い教育の創造をめざして社会全体で教育力の向上に取り組みます。

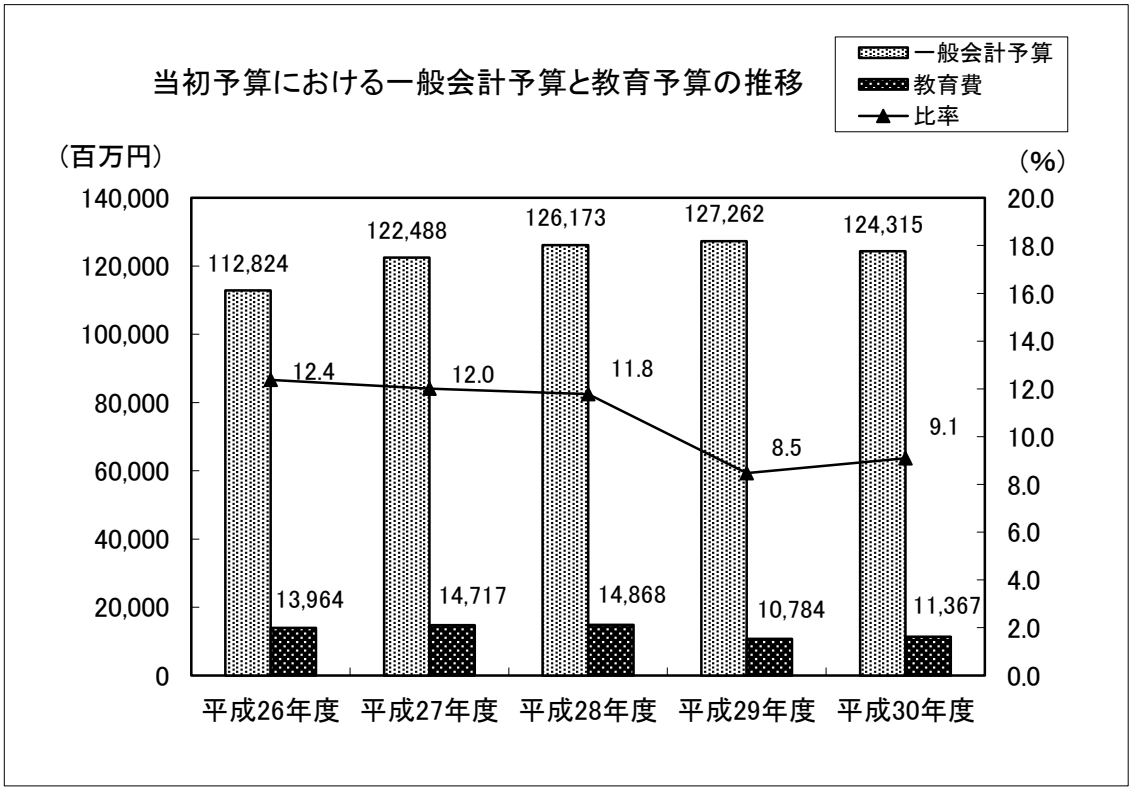
基本目標３　豊かな教育環境の創造　～豊かな学びを支援する教育環境～

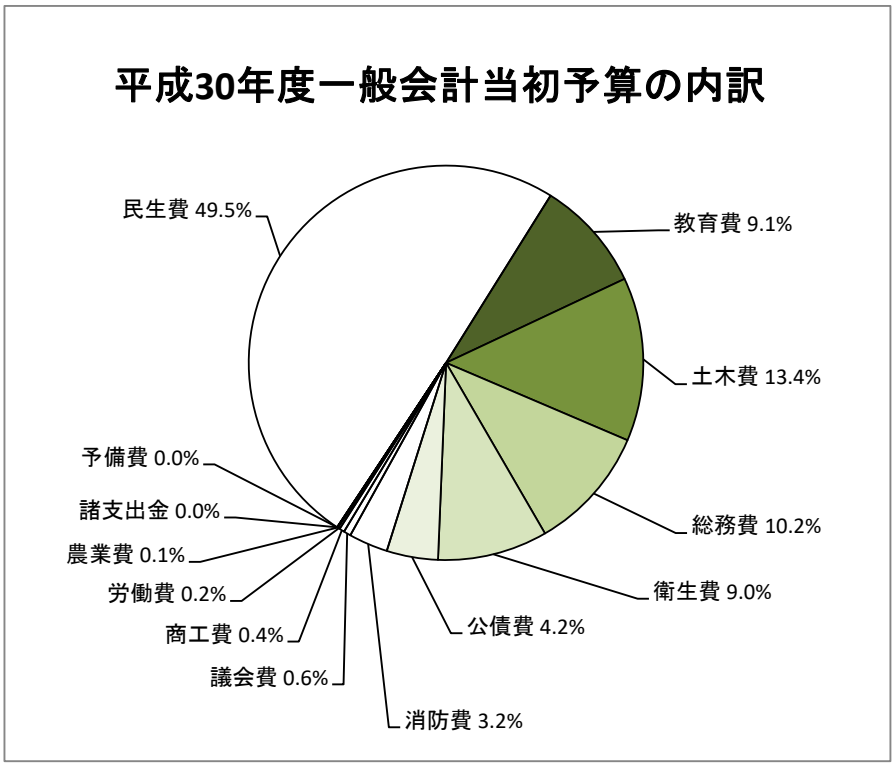
安心と安全のもと豊かな空間で学び、生活できるように学校施設・社会教育施設・スポーツ施設の整備を図るとともに、信頼と責任のある教育環境を創造します。

平成 27 年（2015 年）11 月

吹田市長 後藤圭二

【当初予算における教育関係予算】





〔教育費の内訳〕

教育総務費 15.3%
小学校費 19.5%
中学校費 9.7%
幼稚園費 15.0%
社会教育費 25.5%
保健体育費 15.0%

【教育委員会事務局組織図】

平成３０年４月１日現在

- 教育委員会
  - 事務局
    - 学校教育部
      - 教育総務室
      - 学務課
      - 教育政策室
      - 保健給食室
      - 指導室
      - 教職員課
      - 教育センター
    - 地域教育部
      - まなびの支援課
        - 地区公民館(29)

吹一※	山一	南吹田	東山田	山五
吹二	山二	南千里	片山	
吹三	山三	南山田	江坂大池	
吹六	岸一	山手	東佐井寺	
千一	岸二	吹田東	北山田	
千二	豊一	北千里	佐井寺	
千三	豊二	西山田	千里新田	

※分館として、「さんくす分館」

      - 中央図書館
        - 千里図書館
          - 千里図書館北千里分室
        - さんくす図書館
        - 江坂図書館
        - 千里山・佐井寺図書館
        - 千里丘図書館
        - 子育て青少年拠点夢つながり未来館
        - 山田駅前図書館
          - 山田駅前図書館山田分室
      - 文化財保護課
        - 博物館
        - 旧西尾家住宅（吹田文化創造交流館）
        - 旧中西家住宅（吹田吉志部文人墨客迎賓館）
      - 青少年室
        - 自然体験交流センター
        - 少年自然の家
        - 青少年クリエイティブセンター
      - 放課後子ども育成課
      - 子育て青少年拠点夢つながり未来館

幼稚園(15)

※吹田第一	千里新田	江坂大池	東山田
吹田第三	東佐井寺	片山	南山田
※吹田南	※岸部第一	※山田第一	※佐竹台
※千里第二	※豊津第一	※山田第三	

※幼稚園型認定こども園

◎市長事務部局に、幼保連携型認定こども園「はぎのきこども園」を設置

小学校(36)

吹田第一	千里第三	江坂大池	南山田	藤白台
吹田第二	千里新田	山手	西山田	青山台
吹田第三	佐井寺	片山	北山田	★桃山台
吹田東	東佐井寺	山田第一	千里丘北	★千里たけみ
吹田南	岸部第一	山田第二	佐竹台	
吹田第六	岸部第二	山田第三	高野台	
千里第一	豊津第一	山田第五	津雲台	
千里第二	豊津第二	東山田	古江台	

中学校(18)

第一	第六	豊津	山田東	★竹見台
第二	片山	豊津西	千里丘	古江台
第三	佐井寺	山田	高野台	
第五	南千里	西山田	青山台	

★千里みらい夢学園